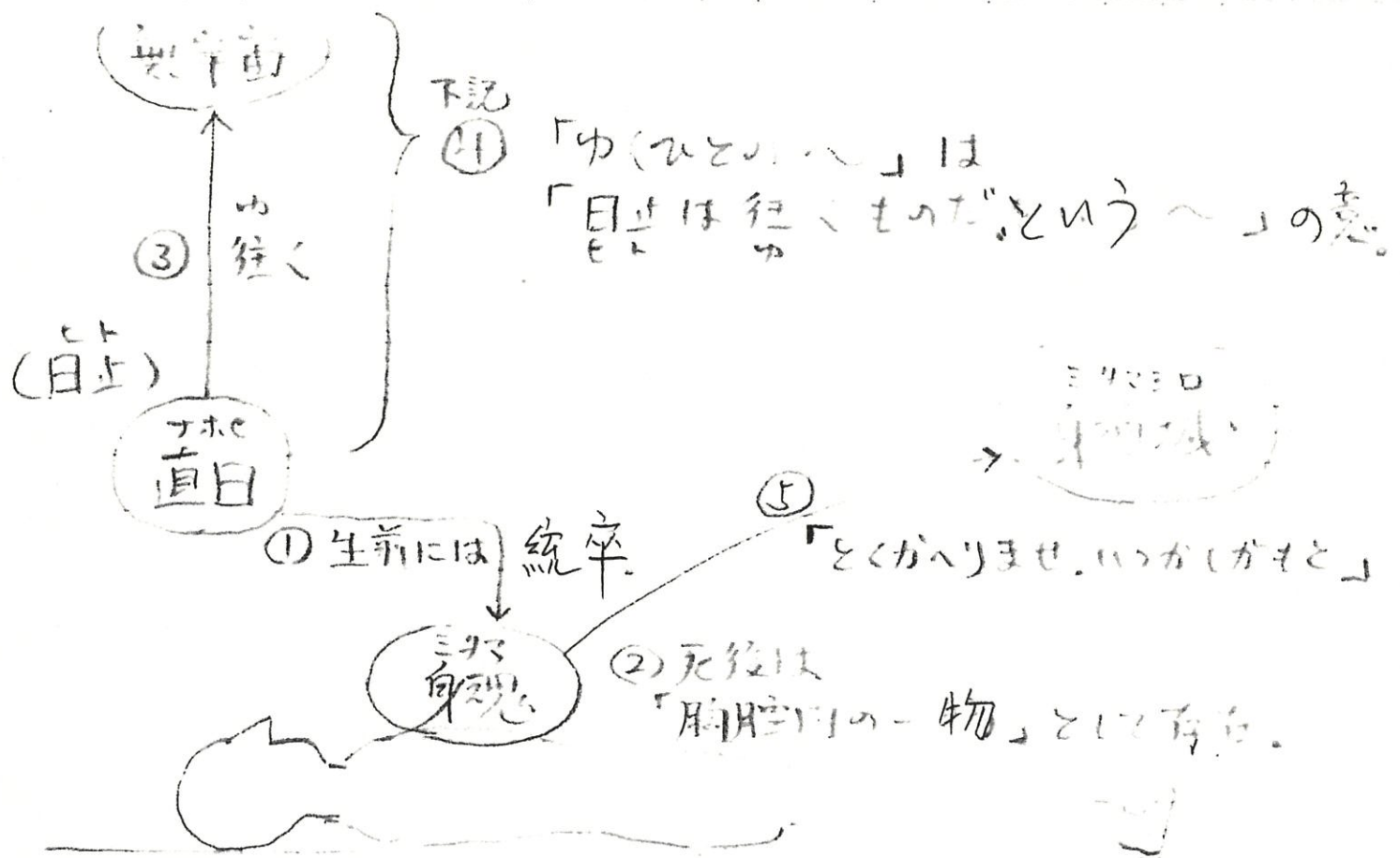


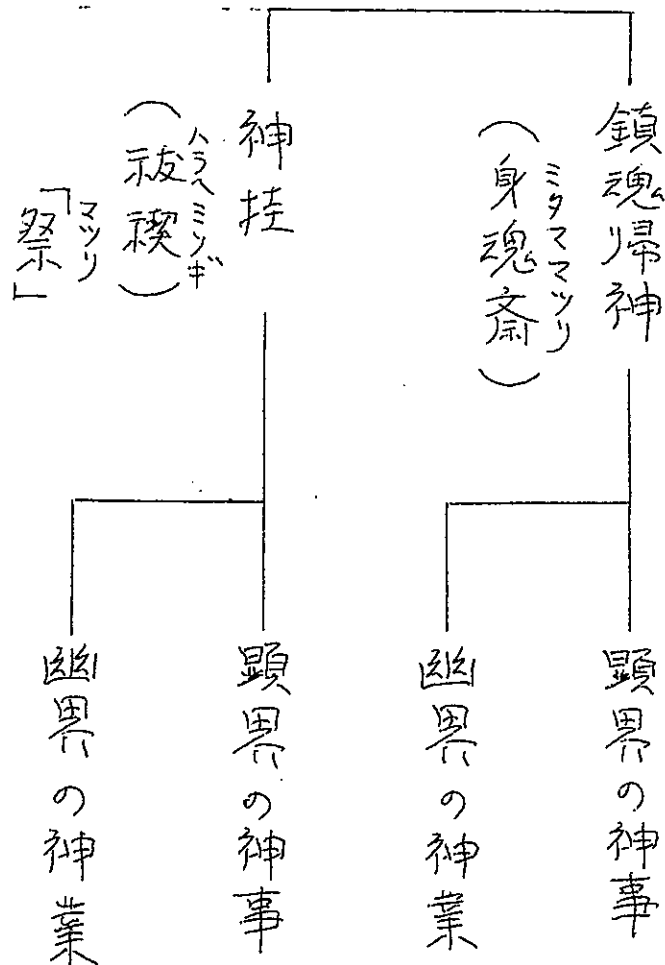


- ④ 人間の死後、その^{フホロ ヒト}直日(日正)は必ず無宇宙へ行く。
 「そういう道理を理解できたのであれば」といふ意味で
 「心知れらば」と述べている。(⑤の前提条件)
宇宙と無宇宙との関係における、
 こうした「必然の道理」を称して、「如是」とか
 「かにかくに」などと表現する。

鎮魂帰神とは

身魂齋みたままつりで、遊離の諸魂を招致奉齋して
 高天原を築き日ひと火ひと日ひ若宮との宇宙
 を産出し長養して神國たる人類世界と
 成さんとし成すなる禍津日まがっひ・八十禍津
 日ひ・大禍津日おほまがっひ・直靈なほひ・大直靈おほなほひの神事で
 あり、神挂かみかりとは現身を調伏し濟度し救
 出して白玉身と成して自ら其の白玉身
 裡に白玉樓閣を築き、之れを磐境いはさかたる
 胎磐として鏡かがみとし鏡かがみの船として極大極
 小の比ひを招祭りて直日なほひ・大直日おほなほひの人と
 成りて生誕するの祓禊はらへみそぎで、天照大御
 神あまのみかみたる天御鏡あまのみかがみ尊のみこと誕生の神儀尊容で
 ある

日本民族の信仰(一)



秘稿『日本天皇国』のまとめ

「コトアマツカミの領域」と「アマツカミの領域」とを二つ合わせて「^{タカマノハラ}高天原」と云う。

両者はともに「無宇宙」だが、「コトアマツカミの領域」は、「宇宙」の存在を前提としていない本来の意味での「無宇宙そのもの」であり、一方、「アマツカミの領域」とは、「宇宙」の存在を前提とした上での、それに^{あいたい}相対する領域としての、より限定された意味での「無宇宙」である。

万葉集の用語としては、前者を「^{バクガウエン}莫囂圓」と、後者を「^{バクガウエンリン}莫囂圓隣」と称する。

神道の用語としては、前者は「^{ひのかみのかみみや}火神宮」であり、後者は「^{あまつかみのかみみや}天津神宮」である。

また、場所によっては、前者を「アマ」と呼び、後者を「アメ」と呼ぶことも可能だろう。

タカマノハラ
ともに高天原

コトアマツカミの領域	アマツカミの領域
バクガウエン ひのかみ かみみや 莫囀圓 火神の神宮 ヒ 国無きの日 カガミ (国を産出するの祖) 大宇宙の大中心 ヒノカミ 天照皇大御神 (火神) 極大極小 (アマ)	バクガウエンリン あまつかみのみや 莫囀圓隣 天津神宮 ヒの国 ミカガミ (カガミノフネ) ナホヒ 宇宙の中心 (人間身では根本魂直日) ヒノカミ 天照大御神 (日神) 最大最小 (アメ、天)
「日本民族発祥の神界」も 「日本天皇の祖神」も、実は、 アマツカミ (伊邪那岐命) ではなく コトアマツカミ (天照皇大御神) なのだ、という意味	アマツイハサカ アマツクニ アマツクニタマ 天津盤境 天国 天国魂 ムスビ カミ ミムスビ 産霊の神 皇産霊 有限の (中での) 無限なる世界 万世一系の世界→十二神界 (イザナギ) ヒノワカミヤ (ヤマト)

以上、秘稿「日本天皇国」より抜粋

日本民族の信仰(一)

多田雄三

現在の日本國には何如なる信仰が有るか。日本國民は今何如なる宗教を信仰して居るか。

佛教各派が存る。基督教各派が存る。神道各派が存る。神社信仰が存る。回教も存る。其の他幾十百種を算ふることができよう。

之れが信教自由なる日本國の現状である。

百千に競ひ立つ齒の鋸も正目は得こそ乱れざりけれ。

各國各民族は、古來其の國其の民族の信仰を統一することに努力して居る。之れに反して、現在の日本國家は其の國民信仰の分裂を坐視或は助成して居るのかと思はるる観がある。

此の現状は何如なる將來を招致するであらうか。否。現在が如何にあるか。危惧煩悶憂患苦悩は新聞雜誌記事の大半を占めて、類は更に類を呼び類を集めて居る。

然も、其の範圍は國家機構の各階級に瀰つて餘すところがない。新奇を追ひ、怪異を求めて止るところを知らぬ有様で、宛然病態と呼ぶべき醜狀で、天魔地妖百鬼争闘の慘劇とも云ふべき亡狀である。

受し、正義の士が奸黠なる者の食餌に供せらるるの止むを得ざる奇怪事は隨處に演出せられて、怨恨の聲嗟嘆の姿は道途に溢れて居る。

軍隊が存り、警察が存り、修養の各團體が存る。けれども、法網の蔭に道義を無視して平然たる野郎は、醜陋の變風を模し國風を破壊して得得たる妖婦魔女と相共に大道を塞がんとして居る。

之れを邪法魔説の結果となすので、國家自ら招きたる醜態亡狀である。正しき信仰を指示すること無くして、漫然放任したる為に下向転落したのである。愚童に與ふるに自由と称する凶器を以つてした結果なのである。

信教の自由とは、國法に触れざる範圍に於てには非ずして、國家に害毒を及ぼさざる宗教の信仰は自由なりとの謂である。

然るに奇怪、世上宗教と称するものが、宗教家と呼ぶものが甲論乙駁喧喧囂囂として國家機構の中に存置されて居る。抑も何が故であらうか。

それが奇怪だと國家は認めぬのであらうか、國民は思はぬのであらうか。認めぬとも思はぬとも然らずとも關知せぬのであらうか。

民風世俗は主として信仰の反映であり無信仰の影響である。それ故に現在の如き風俗は、信仰無き迷蒙惑亂の影響である。

迷信に陥り妄信に溺れて信仰の光明に背いて居ると云はねばならぬ。

思ひ出でて見るも悲しき面影を何なかなかに寫し置きけん。

古老に此の嘆聲が有る。移し借りて我等が祖先の歴史を評し得るのは何たる不幸であらうか。人類が地球上に蕃息し、日本民族が高天原より降り止つてから幾千萬年であらうか。太古原始の歴史は之れを失ひて、今は唯徒に闘争溺情醜惡の記録のみを多く傳へて我等を悲歎せしめて居る。

罪惡醜陋の遺風流俗は苦悶悩亂の人生を産出するの結果に陥る。現存の人間歴史は下向墮落の繪巻物ではないかと怪まるるばかりである。僅僅五千年か六千年間ですら斯の如くで、曾ては釋迦を求め基督を望んだ人類も今は幽魂亡靈を拝し、惡鬼妖魔を祀りて神なりと誤認し佛なりと錯覚して、神社の名を濫し寺塔の稱を冒して居る。

斯の如き奇怪事は何時の頃から演出されたのか。日本民族が天孫降臨の神傳を忘れて、天魔地妖を加美と誤り呼ぶに到つたのも久しき過去よりのことであらう。

舊事紀に既に恩頼の支那文字を布由なる日本語に當て用ゐて居る。布由とは天譴日國禪日の天狹霧國の狹霧としての築城との義であるから、天界現成地界淨化の暁に天御鏡の出生し給ふとの神言靈で幸幸である。恩

のである。それにも關はず斯かる翻譯を為したのは、支那民族が巫覡の思想に惑はされ靈意を問ひ異靈を求むる欲望心に驅られて墮落した為の謬見誤想である。

幸幸とは天狹霧國狹霧で天浮橋の美觀妙趣で天沼矛の神事であるから、幸福の意味は有るが恩頼の意は少しも無い。亦紀記等に鎮魂帰神の文字を用ゐて加美加利の義を誤り傳へ、後人は又更に訛りて加美賀加利と呼んで全音義を破壊して居る。鎮魂帰神とは身魂齋で、遊離の諸魂を招致奉齋して高天原を築き日と火と日若宮との宇宙を産出し長養して神國たる人類世界と成さんとし成すなる禍津日・八十禍津日・大禍津日・直靈・大直靈の神事であり、神挂とは現身を調伏し濟度し救出して白玉身と成して自ら其の白玉身裡に白玉樓閣を築き、之れを磐境たる胎磐として鏡とし鏡の船として極大極小の比を招祭りて直日・大直日の人と成りて生誕するの破曉で、天照大御神たる天御鏡・尊・誕生の神儀尊容であるから、釋迦傳に所云の佛誕で天上天下獨自の尊體である地藏尊であるとの義である。で此の兩者には顯界の神事と幽界の神業との區別が存り、幽齋と顯祭との差異が存る。

此の一例を見ても、日本民族傳承の神言靈を日本民族自身が千幾百年或

は幾千年の過去に於て既に已に遺忘失念し去ったかが知られて憐憫の情に耐へぬのである。

正しき傳承の神言靈を忘れて以來、日本民族の信仰は歴史の記載するが如く支離滅裂し、民風世俗もまた混淆雜糅なること地界魔境の醜態亡状とも云ふべきである。

幸に明治天皇の生れましに依りて日本民族は其の帰向を指示せられたのである。

しるべする人を嬉しく見いでけり我が言の葉の道の行く手に。

御製歌を拝誦して民人は唯一筋に國土經營を翼賛し讚美し奉るべきである。

大君のまけのまにまに人は皆國こそ築け心廣野と。

惟神神の知るなる皇國は唯神ながら神知らず遯遁。

之れ日本民族が高天原より傳承し來れる日本國體觀にして、日本天皇觀にして天皇にたましますので、正しき日本民族の正しき信仰である。

日本民族は過今來を通じ生死を隔つることなく此の信仰でなければならぬ。然らざれば邪道魔境に墮落せるもので、六道輪廻の亡魂亡靈と呼ぶべきもので、正しき人生を経綸することはできぬのである。

単日本民族と云はず、人類は皆悉く然るべく、萬類亦皆悉く然るべく、萬物亦復如此であつて初めて天地發け高る。

天原現成し魔軍降伏して淨土湧出し醜穢洗はれて樂園築かるるので、之れを神代と稱へ神の国と呼び神の國と讚美するのである。現世即天國で娑婆即淨土で現身成佛で此の土即ち高天原で此の身即ち神身である。修理固成なる白玉身で白玉樓閣で白玉の眞玉勾玉で細戈千足國である。

白玉身とは、皇土であるから日本天皇統治の樂園で天皇國との義である。現世即ち神國なので、國土民族の一切が天皇にたましますので、民人は天皇の稜威の中に在るが故に神たるの功勲に浴し得るので、天皇即國家で國家即日本で日本即國體で國體は即ち天皇にたましますので、不二不三不四であると共に非で否で唯一でないと共に二三四五等ではないのである。

然るに世上此の理に晦く天皇は國家の中心にたまします、天御中主神は宇宙の中心にたまします、中心は唯一である、二又三存るべきではない。二又三存るは中心ではない。中心は唯一絶対であるから動揺することがないのだ天壤無窮なのだ。之れが日本國體なのだ主張し講説するものが多い。

けれども國家の中心と云ひ宇宙の中心と稱するは、其の外廓に對してはじめて成立する名題であるから唯一でもなければ絶対でもない、動揺もすれば無窮でないと共に日本國體でもなければ固より天皇にたましますまぬのである。

然り。天皇と稱へまつるは天津神・天津磐境を起樹てて高皇產靈尊の加美加加利給ふところであることは日本書紀の傳へたるが如くである。故に地界魔境である黃泉醜女を、伊邪那美神の調伏し濟度し救出して築き成した高天原から伊邪那岐神の產靈に產靈て產出したまひし神人にたましますので、天照・坐皇太御神・天照皇太御神・天照大御神の神・德を備へたまひし神身であらせらるるから、極太極小で極無極で宇宙大宙で宇宙の大中心で無宇宙の宇宙で無中心の中心で一で一切で、絶対ならざる絶対なると共に相對ならざる相對であるところの絶相對で、極限せらるるところ無くして極限を示して居るから限でなく無限でもない。萬葉集中に莫鷺圓と記載したのが此の義である。

日本民族の信仰(二)

多田雄三

此の宇宙の大中心としての莫鷺圓の國とたたへまつるは天皇にたまします故に莫鷺圓隣と支那文字を假借して其の義を示したのである。天皇即國體にたましますと共に體用不二不二にして耶止とたたへまつることを古典に依りて窺ひまつらるのである。體用不二なる耶止とは直靈で神直靈で靈で魂で布斗遯邇で布斗能利止

で尊で命で命であるから大死で解脱で涅槃で觀世音で佛である。基督で十字架で死生觀であるから天皇氏地皇氏で黃帝で帝である。日本民族は比と傳へ一神と教へ日火一水靈魂辨非否と訓誡へて居る。陰で陽で陰陽不測で神魔であるとは支那民族の教へ來ったところで印度人は六道輪廻地藏佛界と垂示して居り猶太民族はアララットと教へて居る。

如此に各國各民族が宇宙成壞の事理を體得し大悟したる證左を傳へたので説明の方圖と言語とに異別が存るといふまでで事實は同一事實であるところの眞理である。如是の相で如是の聲であるから如であつて起伏生滅するから如去來で如來だと説くのである教へ來ったのである。

如去來は生滅であつて不生滅であるから無終の終無始の始で無始終の始終であるところの箇體である。之れを支那民族は宇宙と呼んだので日本民族が日止と稱へ日月と云ひ傳へ身とも身魂とも幸幸とも布由とも傳承し來ったところで印度佛教に菩提薩埵と教へ基督教にゴットと指示したので生滅滅已寂滅為樂南無阿彌陀佛なのである。和禮なのである。美知なのである。血統なのである。伊能知である。天命である。美固止である。阿米津知能加美である。天地の神の心を心にて築き成したる葦原の國。

へてある。以て日本古典を補足すべきである。大日如來と佛教の示すところ、日神と日本民族の教へられたる鏡の船で天津磐境である。大宇宙の中心で無宇宙である。宇宙が無いのであるから中心も無ければ外廓も無いのである。之れを一圓一音の眞に徹したる無人の人となすので解體したところの體である火である。劫火洞然大千壞滅なので無我である眞如である。ゆくらかに時は移りて時は來て今ぞ華咲く神の言靈。

解剖し分體し終りたる曉で支那人が原始反終と云ひ佛教に地界打破と稱する底の人である。

八朔の翌けて見回す山と川。

死者を齋るには華を以てせよと舊事紀に傳へたるところで佛徒が花供養と呼べるもの、基督教徒が棺裡に花を埋むるもの、日本國の風俗に賢木葉を供ふるもので火葬の義で喪である。日本仏教眞言宗に護摩供養と稱し施餓鬼と呼びて火を用ゐる水に淨むるもので極大極小の比と化する秘儀密言なのである。支那の孔丘之れを知らざるに其の子弟の間に對し虚偽の言を弄して後世の学徒までも欺き迷はしたのは許すべからざる罪業である。

近時の佛徒が花祭と號けて佛誕會に化を供するが如き行事を為すのは花供養の理を知らず漫然錯誤をなしたので國家機構の高位高官に在ったからとて

其の死後に神社建設をなすの風習と共に愚蒙なる行為で憐憫に耐へざる墮獄の惡風である。

杜る限我は盡すを人知らず人し知らねばつれなかりける。春の花秋の紅葉年毎に咲き散る見ては人の騒げる。夢の間の心の緩びに夢の間を禍媛こそは慕ひ寄るなれ。何時か亦復八洲の瑞には相逢はん世の争を解くよしもがな。

人間行路似羊腸行人去來似風雲もので向背俯仰の一點は升天墮獄の分岐點であることを教へられたので信仰の一點は直に神魔を分割して高天原を築き無人の人を拜して遮邇の殿堂に入るこゝとができるので白玉楼中白玉身白玉身裡白玉楼閣の美觀妙趣は展開せらるるのである。佛教に所云の來迎佛で八葉蓮座は觀音佛智の水精宮で宮殿は嚴飾せられて彌陀觀音勢至の諸佛菩薩に圍繞せられ常住說法するところの七重樓閣四匝淨地である。

玉の緒を結び結びて人の身はい着くなるなる天安川。結び置きし門の若柳茂り合ひ枝わかすこそ色増さるけれ。

之れを春日比咩の示徳となすので結び結びて統一魂と人の仰ぐなる身魂城である。之れを身魂齋功成りたる曉となすので喪であり葬であり墓であつて奥津

城であるから茲にはじめて美耶志呂を築き得たので神宮を建立して得たので神社であつて社で茂利で守で見守の宮で鎮魂神の曉で大嘗身魂齋で完全に示界を築き成した身魂である。佛法に過去七佛と傳へられたのは七重四匝の佛國を築き成した身魂城なので法身佛で應身佛で報身佛で一字金輪大日如來であるから釋迦大日で事理無礙無量壽如來である。

此の築城は神直靈の神業で命と尊との宇氣比であるから断じて過つことはない。

けれども成住壞滅と人の眺むる現象世界と異なることなく神業の功成りたる曉はまた直に凋落に向ひつつあるので尊の現身が人間世界を去ると同時に破壊を始めざるを得ざるは宇宙成壞の運命である。住ることとは無いので其の人を得なければ急轉直下エスの神國の如くであり或は悉達多太子の佛國が子弟の為に暫く住るに似たるが如くでもあるのである。

今茲來て我復遊渡津見の鱗の宮は神の常宮。

生死病死は単現象世界のみではない。否。人間の身は知り得ずとも生死遷流の宇宙現象は刹那生滅して大宇宙と交替流通しつつ迷悟地を替へ眞妄境を隔てても究極必竟一圓光明一音響裡の神魔天地に外ならぬので悟れば佛迷へば衆生だと佛徒の云ふのは事實である眞理である。

杜るかぎりなきたるけさの日神業天地共に統一魂天地共に統一魂天地共に統一魂神。天地共に統一魂神天地共に統一魂神。天地と判れては偶ひ日月とは運行りて人の世を神代とは成せ人皆を神とこそ為め神神神のまにまにに神しらすまに。

剎那生滅神魔出沒今生後生如來去來。如是神人築城秘業調伏濟度救出誘導攝入示界神隨隨時隨處隨身矣焉哉。八種神神社加加神神能固止神能遮邇遮邇神神知良須遮邇。

觀世音菩薩佛界新生の菩薩を導き來る相は幼兒の如く膚は水精に異らずと古老の傳へ記したのは神挂の證左で饒速日尊としての奇身魂なのである。人間身としての奇身魂は黄色で直日としては黄光で直靈は白玉の如く水精宮の如くである。印度に摩尼と稱へ支那人が寶珠と翻譯したところの璽なので太玉なので十種神寶で三貴子で三重の子と古歌の傳ふところで三重相で天照坐皇大御神天照皇大御神天照大御神にたましますから三種神器で止哀加美惠美多米で猶太民族が十字架と崇敬し支那民族が皇帝と尊信し天帝と奉拝する神籬磐境なので神國統治の曉である。布留の宮安の河原に人ぞ寄る世を朝夕の隔有らなく。

之れを日本民族天降以来の念願となし本懐となすので天照大御神天照皇大神天照坐皇大神の祕言靈にして祕神事にして祕業なりとなすのである。日本民族の使命なりとなすのである。

日本民族の信仰が此の道に統一せられたる時統一したる時日本天皇は宇良安く天地與に統一魂神たる天御中主神にてましますことを御民諸諸拜みまつり感謝ひまつり祭り奉ることを得るので八隅知し我が大君安見知し我が大君と古歌の傳存の所以である。

やすみしし我が大君の統治したまふ國は細戈千足國なりと古典の教ふるところと日本祭式に現在も傳承して居る。垂手と云ひ結繩と呼び四段三垂と稱するところと其の能利止を拜誦して人人は體得し悟證すべきである。

四段に裁断ち三垂に垂れし木綿垂手は我が御命結繩結ひし我が大君の御力ぞ大日本統一魂神とこそ知れ御民諸諸。

神魔剖判して神魔同凡に杜るの尊體妙用なりとの義で天香山五百津眞賢木比咩と傳へたる布留野宮安野河原にてましますから經津主神で振魂尊で大正大邪で石上神宮の齋串五十本と傳へ諏訪神社の柳條百五十本と云へるもので支那民族は大衍之数五十と教へ天地之数五十有五と傳承したところと極無極の数であるから極大極小の火で一圓光明の相であると共に闇黒の

光明で佛教に所云の鐵圍山で鐵鳥で支那文字に傳へたる畏で日本古典には禍津日と載せ八十禍津日と云ひ大禍津日と傳へて伊邪那美尊で印度婆羅門教に聖無動と教へ猶太民族がエホバと尊崇し支那民族が泰山と拜戴したところと天照坐天御中主尊であらせらるるから天祖天護日天狹霧國禪日國狹霧尊で、天祖と古典に傳へ各地に奉祀せられたる天照大御神にてましますところの神皇產靈尊であらせらるるから壇土比賣で五十鈴比咩で阿知米で加多利部である。

阿知米於於於。
阿須婆加須耶會於於於。
佐加良加須耶會於於於。
阿知米阿知米於於於。
宇宇宇。宇。止。宇止。

五十鈴比咩の神言靈であつて宇止の神事であるところの祕神業で火火出見尊の幸幸であるから塩土翁の無間堅間であると教へられてあるので無でもなければ有でもない時間も無ければ空間も無いのでありながら時間ともなり空間ともなり時間をも破り空間をも壊すので點無きの點で物無きの物で人無きの人で佛教に云ふところの佛眼で焰魔天で焰魔天の左掌で左である。日本民族の左目傳といへるところで師であつて獅であるから物資で材料で資料で財貨で領土財産で御食で御毛で御食津物で物である食物である。食和物食

荒物であるところの國常立と日本古典の傳ふるところで豐受比賣で固満伊奴で委奴である。印度人の所云獅子座で八葉蓮座で八である。八葉蓮座とは八坂瓊であるから華であつて開落榮枯で木花散耶比咩であると共に木花散比咩で伊邪那美であると共に伊邪那岐であるところの伊邪那美命であらせらるるのである。支那民族は水火既濟であつて水火未濟で水火未濟であつて水火既濟であるところの地天泰である天地否であると傳へて居るので非であり禊であり沸であり湯である。日新又日新であると教へたところの生死遷流であるから四象で田で申で陰陽で現象世界である。月夜見月弓月讀命と日本書紀に傳へたる荒身魂の事理で日止なのである。明闇で昼夜で日月で善惡美醜で正邪曲直である。古典に天地と教へて天壤無窮と説明したるところである。

天地を貫きたる玉の赤玉の緒さへ光ると國津神我が大君のまけのまにまにに生も死も唯神ながら神のまにまにに國こそ築け心廣野と。

日本の古典は天地未剖陰陽不分渾沌如雞卵と記して人間身雜糅神魔群棲の状態を説いてある。未剖の天地初發けて神坐す。未剖は人間身で初發は神身で我が大君で惟神で國津神で明津神で大八魔止須米良岐美で天皇にてましますので神魔同凡に在るので貫きたる玉

の赤玉は玉の緒で制御統一の神權で結繩であるから御力で御命で美知で大道で黃帝經である。老子道德經に之れを傳へて道可道非常道名可名非常名無名天地之始有名萬物之母と云へるところの道であるから佛教に所云の虚空藏で釋迦傳に曉天正坐虚空定に入ると云へる大悟徹底の人で一円相裡一音琅琅たる日止で火人で佛で菩薩で命で尊で生命で大死であるから生死解脱の身で涅槃であるから十字架上のエスで支那民族は之れを風地觀で地風升で神道で人道であると傳へて來たのである。

故郷に我は帰ると人の世に留め置くなる歌の一巻。

生死事大常念不忘死生解脫時空如來一圓一音瑤瑤琅琅古老今人困卓談笑で賢木葉の香をかぐはしみとめくれば八十氏人ぞ團居せりけると教へられたるところで君民和樂上下白玉泉聲潺湲なで白玉光底に泉聲を聴き得たる曉で金鈴一振梵鐘一打火光一閃忽然體得此是一點の人で直日大直日と古典の傳へたる神直日の人である。之れを高天原統治の主神と教へられたから天照皇大神御神にてましますところの天御中主大御神であらせらるることを古老は傳

日本民族の信仰(三)

多田雄三

山裡山外日月清明一點昭昭不容邪曲。
秋雨は今日はな降りそ我がせこが
稔田刈らん束の霽間ぞ。

大小長短廣狹深淺は人間の尺度である。人間世界を計量することはできない。けれども極大極小の火極無極の日最大最小の無限の靈無始終の否無終終無始始の魂絶相對の非原始反終の緋非否の氷を計算することはできない。

然るに世上哲學者と称して大宇宙は球形である中心の力は同一であるから同一距離に達するのであると説いて居る。

然らば其の球の外は如何にと問へば大宇宙とはあらん限りであるから其の外と云ふことはない。大宇宙の外といふことは無いので想像することができぬ。唯大宇宙の球形であることを知るのみである大宇宙の球形である如く小宇宙もまた球形である一切は球の結成である。眞想裡に容易に知ることができ

る事理であると答へて自己が大宇宙なるかの如く眞想が一切なるかの如く空嘯いて之れが日本民族の宇宙觀だと傲語して居る。

けれども日本民族の古典には宇宙を比と教へ大宇宙を比と傳へ小宇宙を比と云へるのみで球が圓か方か稜か線か面か點かを云云しては居らぬ。比の哲學者は誤れる言靈學を弄して古典を曲解し謬見に墮ちたもので人間身と示界との異別を無視し一切を人間

の尺度で計らうと思ひ量り得ると考へ算へ得たと思ひ誤ったものである。

大宇宙は宏大である高莊である幽遠である微妙である。一有一類一世界を見て漫然と類推し得るところではない。

暁の海原遠く見渡せば天地は今や統一する存在の盡盡。
暁の海原遠く見渡せば天地は存在の盡盡統一にたると。

鳥歌泉聲天地景致翻翻胡蝶輕羅舞。流水は心有りて鳥の歌を喜び櫻花は笑ひて雲の行くを止むるもので之れを日本の古典は瓊和止茂茂由良と教へて宇宙化育の祕神業である。

朝もよし城上の宮は神髓神の宇氣比てかみかかります。
天照皇大御神の御田三處有り素盞雄の御田亦三處有りと日本書紀の傳へたる美田沃地で高天原である。御田とは借字で神言靈で晃耀赫灼たる天國樂園である西方淨土である修理固成たる天皇國である靈であるとの義で伊邪那美神の火神業の功成りたる暁で天沼矛の神傳である。

塞坐黄泉戸神で道反神で大禍津日神であるところの伊邪那美神の神業は地界魔境を調伏し濟度し救出するので極大極小の火で陰で陽で男で女で陰陽男女で非否で是不是で破壊で建設で死生で死生觀であるから解脱である大悟散底である。聖無動經に出大智火以焚

焼一切魔軍而成大火聚徒非燒諸冥衆而耳與法藥令得安穩とあるところで神人の自濟度し然らざる人人は神人を待ち或は中有に彷徨してそのまま轉生輪廻し亦是天祖の調伏濟度救出誘導攝入に浴するので千態萬様に轉化變生するのである。之れを湯津津魔具志と教へて轉變出沒の義である現象世界の實際で生死遷流の事理である。

天祖の加美能加美輪散で生魂足魂玉留魂の産靈で人類萬類は此の神徳の中に杜りて其の神徳を現し得たりと思ふのである。

けれども一切は唯宇宙の外なる加美の力のみであるといふようなものでは固よりない。殊に中古以來の人人が加美の語義を忘れ美固止の何たるかを知らず。そのうへ神を讀ふるに様の如き人間的敬語を加へ更に御の語を重ぬるが如きは全く音義を忘れて言語の墮落した為で最悲むべく深く誠むべきことである。

人間身雜糅で神魔紛争するもので風雨時ならざる現象である。然も此の中に杜りて念念勿生疑で唯一筋に觀世音の御名を称へまつる人が有るならば具一切功德慈眼視衆生。皆共に解脱。之れが觀音佛智の力であるとは梵音たる加美能言靈の威嚴妙用は人間身心の測り知るべからざるところであるとの義である。

はるひひめはるひひめはるひひめ。ああひがてんじんゆうあひこ

う。
あまてらしましますすめおほみかみあまてらすすめおほみかみあまてらすおほみかみ。

日本民族の信仰(四)

多田雄三

人間の身は生まれて以來五感的機能をつたうに生活して居るから人身解脱の高天原を知らず命の加美代を知らず加美能代の加美能言靈をば知らぬのである。知らぬでも教へられたままに称へまつればよいのである。ところが自己生活の習慣に合はぬことでは不満足に思ふところから神界の事理をも人間世界の事象に當て嵌めようとする當て嵌めねば安心されぬ氣がする。此くて加美の教へを人間的に作り更へて神話と呼び甚しきは傳説として居る。

大宇宙の事理を人格化して始めて安心した日本人は日本國體としての中心觀念が強固であるからであると説を為すものがある。単日本人と云はず人間身心は極大極小の眞に徹することが難い為に現象世界に拘束されて小宇宙の事理のみに迷ふのである。常見外道は死を憎惡むことが甚しいので國體觀にも唯唯中心不動の妄斷を下して居る。千萬の星はめぐりて動けどもゆるがぬ星の唯一つあり。北辰其の所に居て衆星之れを回るが如しと云ふならば可いが唯一つ

動かぬでは宇宙の事理でない。
大宇宙の大中心は一切であるから
生死解脱で断常の二見を解脱したので
白玉楼閣白玉身である。

天地と別けこし時ゆ久方の天津
と定めてし天河原に璞の月をかさ
ねて妹に偶ふ時を待つと立待つ
に我が衣手に秋風の吹き反らへば
立ちて居てたどきもしらに村肝の心
覚えず解衣の思乱れて何時しかと我
が待つ今宵此の川のゆくらかにかも
天漢河原に立ちて月ぞ経にける。

天皇玉璽を天河原と教へたる古歌で、
それは天地初發よりである神魔剖判の
曉であるとの義である。日本國體の本
義昭昭として一點の疑義をも挿むべき
間隙は無い。

天地初発之時於高天原成神名天御中主
神と古事記に記し天地初判一物在於虚
中状貌難言其中自有化生之神號國常立尊
と日本書紀に載せ天先成而地後定然後
於高天原化生一神號日天讓日天狹霧國
禪日國狹霧神と傳へたるところを對讀
するならば此の歌の意義は一層明確に
知り得るであらう。

惟神である。神であるところの人で
ある。尊貴にてましますが故に尊の支
那文字を充當てて神人の義で美固止と
讀ましめたので直日神直日にてましま
す加美那賀良なのである。加牟なので
ある。
神髓神の賜ひし加牟なれば消ゆる
ことなき我が命かな。

加美那賀良の比は宇宙の大中心であ
るから大宇宙である。人間の尺度で計
算することのできるのではない大小長
短廣狹深淺でもなければ方圓稜線點面
等でもない。固より球でもなければ有
無でもない中心でも外廓でもない命だ
との意味で命の支那文字を借りて美固
止と讀ませたのは天祖の義で無宇宙
の宇宙たる大宇宙で大宇宙の大中心
で無中心の中心で一切である。

銀碗一握雪焚盡一堆書香烟一縷命唯
繫一點火もので生死還流である天命で
ある。阿知米で天地であるから天壤無
窮の語が存るので阿米津知與にして日
月運行して美醜交錯して善惡邪正並列
出沒して断絶することはないとの義で
ある。之れは日本國體ではない。大宇
宙の事理であつて現象世界の事實であ
る。此のような現象世界を整理し統一
したる曉が日本國體で惟神である。

惟神即日本即天皇即國體即神
魔同几體用不二不二三不四に
てましますので政治宗教教育産業文學
藝術兵馬軍旅等一切の主體であると共
に妙用である。天地と別れたる宇宙で
ある。

天地剖判は神徳で天壤無窮は
天命で天地剖判の宇宙は尊である。
天地の神にぞいのる我が心大空の
如くあるべく。
日本民族傳承の言靈としての加美
とは天地の神なので天津神國津神なの
で天讓日天狹霧國禪日國狹霧神な

ので一神なので日神なので加と美との
二音義合成の神音なので分割すれば
天津神と國津神で天讓日天狹霧と國
讓日國狹霧なので天地神なのであ
る。之れを二重相となすので伊邪那岐命
伊邪那美命二柱神と古典の傳ふところ
で天浮橋とは二柱神の加美加加利
で天御鏡尊出生の神儀尊容である。
日本書紀に状貌難言と云へるは其の秘
事なるが為であると共に言説の及ぶべ
からざるところなるが為にもあるの
である。

猶太民族の誓約に神二つの光を與へ
たまふと云へるは此の二重相で二柱
神で二日で天地共統一神で高魂神
魂である。

二柱神立天浮橋而指下其沼矛以
畫者引上時自其矛末垂落之監累積成
嶋と古事記に伝へたところは二重相
が三重相を現したので生魂足魂玉留
魂である。之れを皇產靈神と稱へま
るので三神と呼ぶことができる。産神
なので産靈なので三重の子である。
三重の子が稜威玉碗に受けし阿知
米哀知茂せに皆こをるこをるに高
光る日の皇子。

之れを天地の稜威となすので伊頭能
雄走と古典の傳ふところである。
祈年祭に神魂高御魂生魂足魂
玉留魂大宮乃賣大御膳都神神代主と
稱へまつる大宮實が三重相で大御膳都
神とは高光る日の皇子で日本天皇に
てましますのである。神代主と稱へま

つるは日本天皇の玉緒の神傳の義で
結繩である。
結繩延へて我が春の田に水引くと
結繩こそ結ぶ君が大御田。

尊命事鬼敬神而遠之と禮記に載せて
之れが夏の道だと傳へて居る。夏の興
ったのが今から四千壹百年前と記して
あるから禮記本文に従へば巫覡の邪行
魔法が平常事とされて居たことにな
る。孔丘が結繩の語を曲解して後世之
れに代ふるに書契を以つてすと附け加
へたのを見ると黄帝の道が支那人の間
に忘れられたのもまた遠い過去である
と思はせらるるのである。

日本民族が日本語としての神言靈
を忘れ佛教が傳ふところの阿彌陀佛
音を唱ふるもののみ多きが如く基督教
徒が正しき神言靈を傳へながら之れ
を奉唱することを知らずして反つて禍
津毘の禍言を唱へつつあるが如く各國
各民族は相率ゐて分裂分散に走り下向
轉落しつつあるは悲しむべく憂ふべき
の甚しきものである。

たまたま言靈を云ふ者はあつても全
全音義の何たるかを忘れて居ること柿
本人麿をはじめとして近時の言靈學者
と稱するものの皆然るところで為に却
つて甚しき謬見邪説を出して世を毒し
人を苦しめて居る。
ふるべゆらと古典に載せたのは斯の
ような禍津毘の禍言を指したので之れ
は五音二言の禍言靈である。これに由
良止哀布留込の七音を加へて布留邊由良

由良止表布留邊の十二音三言と成す時は禍津昆調伏濟度救出の神音と化るの阿三忙銀備の畔尾觀南の音は禍言であつて阿三忙銀備の畔尾觀南畔羅羅の畔尾觀南の音は佛言で禍津昆たる六種外道を調伏し濟度し救出するの秘言密語であるとの秘言靈で神直靈の仲である。

布留邊由良止表布留邊
ふるべゆらゆらとをふるべ。
ぬなとももゆら。

淺間山人こそ仰げ眞賢木の綠色濃く照りにぞ照りたる。

資財を用ゐず材料無しに事業の成立つと云ふことはない。不正不美不善なる

か如きも一切は命である天命である。これを使用するは直日であり神直日

のり直靈であり神直靈であり神日本岩余比古である。之れを阿知米阿知米

が於於と教へられてある。安野野に和禮伊保利して人待てば

來る人多に花を挿頭せる。春日比咩知らす春野の高圓にみめ

つこのさはにつどへるみめつこの此くはうたへる天成るや我が高比

古の神なるや君がみ相まつぶさに統一する児高圓の名にしふさへる

高比古の神。愛すべき者よとの意に用ゐるところ

の美米都児とは分散分出破壊脱走の音義醜陋陋劣邪曲の禍津昆は以って我が

心を研磨すべく以って我が事業の資料とすべき物である材料であるとの義で

他山の石以って我が玉を磨くべしといふに等しいのである。之れ第八神界主神の神徳で開花落葉榮枯盛衰の火である木花咲耶比咩木花散比咩二柱神の加美加加利である。

火山を仰いで木花咲耶比咩と称へ祭りたる淺間山とか淺間神社とかは此の意で小宇宙との義である。小宇宙の代

表的存在である生死出沒成住壞滅の事理を教ふるものであるとの意味からなのである。而して之れ磐長比咩である

磐境である不生不滅不増不減である唯之れ表裏の觀察を具にするが為のみで

あるとの意を古典は誤り傳へて瓊瓊杵尊皇后の神話としたので甚愛惜すべきである。

日本民族の信仰(五)

多田雄三

夏山の緑色濃き眞賢木は見る人毎に光をぞ増す。

小宇宙は成住壞滅の現象世界である淺間山である火である日である箇體である。けれども大宇宙の波紋であるか

ら觀察の方圖を別にすれば不生滅であるところの生滅で不増減の増減で一神

であるところの日神で天譴日國禪日の二神で伊邪那岐伊邪那美の二柱で

木花咲耶比咩木花散比咩の二神で天地とわかつたる神で加美である。

故に加美とは天地の義で天地割割天地割判の義で天津神國津神で天地神たる美固止とは異なるのである。

紀記と萬葉集とを對讀すれば加美と日本民族の傳承し來つた神言靈は此の如くであることを知らるので天上主宰の神の意味でも靈の意の神でもない。支

那人が尊命事鬼敬神と古典に載せて神无方と云へるものは異靈奇妙なる禍津

昆の義であり天神地祇と云ひ神祇と呼べるは天上主宰の天帝であり上帝であるとの意であるから人間以外の力である。

人間以外の力が人間を支配して居るから唯一心に其の力に依り頼みて自己の欲望を満足させようと願望求尋する

のが靈の信仰とでも云ふべき迷信妄信で正しき意味での信仰の語には當らぬのである。それであるのに現今では

信仰と云へば此の迷妄の信念を指すか甚しきは信仰とは自他の觀照合一であつて信仰の對象は高卑上下に拘はるこ

とはない向上的信仰もあれば向下の信仰もある一杯の水を呑むも信仰が無ければできぬのだと云ふ。

醜陋を信ずるとも仰ぐとも邪曲を信仰するとも天魔地妖を信仰するとも思ふ人はないはづであり美なるが故に善

なるが故に正しきが故に信ずるのであり仰ぐのであり讃ふるのである信仰するのである。

無信仰的信仰慾望的信仰の造語は甚面白きが如く便宜なるが如くであるが

究竟するに魔言妖舌の蜜にすぎない。何事を我はも思はん君が為唯眞心を盡すばかりぞ。

人間の行路には兩岐あることなしと古老の教ふところ誠むるところで唯正是れ一以って天に升るべく以って神界を築くべきである。

右願左盼は究竟するに墮獄の業である。

何時もかも神の稜威に被映して光る此の世と人の成すべく神知らず遮。

今日不知來時路明夜果遊那邊乎。今日今日と人こそ遊べ明日の日を

誰待ちてのみ世を送るべき。時じくのかぐの木の實か撓みなく

學びて行かな世の人の道。大空に羽打ち延へて立舞はん其の

曉ぞはれにはれたる。人間以外の力と思ふ中に人間の力が

其の人間の力とは思はれぬ崇高宏莊幽遠微妙にして廣大なる妙用を現はし來

る時小宇宙は小宇宙を解脱して大宇宙の中心と成り得たと云ふので大八魔

止須米良岐美にたましますなる直日大直日で天津神國津神の神徳を身に現

はしますなる直靈大直靈で我が大君と古典の傳あるところである。禍津日大

禍津日なる伊邪那美神にたますので火の神で火人で解脱身である。解脱身は人の欲すると欲せざると求むると否にかかはることなく眞理を

施與して安穩ならしむるので雖無願個
求尋與眞理而俾得於安穩と印度婆羅門の
教ふるところで神人の神業自然るので
大宇宙法爾の大慈大悲である。

唯頼め浅茅が原の挿蓬我世の中
に在らん限りは。

神樂歌の教ふところは何であらう
か。解き得たるが如くまた然らざるが
如くでもある。

ながきよのおのねふりのみなめ
さめなみのりふねのおとのよきが
な

の俗謡を神祕なるかの如く神傳なる
かの如く掲げ來て學徒を苦しむる邪曲
奸黠の者あるが如きとは全全異なるので
神樂歌は神言靈を教ふるに人間日用
の言語を借りて之れに假托したので人
間の日用語が神言靈の音義の一端を
現し居ることもありまた然らざること
もあるので唯人間に止め置かんと神
の御恵である。

神徳穆穆神威赫赫時空を脱却して時
空を築くものは時空の中なる箇體を救
はせんが為のみである。

春日比咩知らず春野は神の花今盛
なり大日日留女野日高見國。

夏の日の光赫赫く大空を心廣野
に我立ちて仰げば嬉し神の代の
相ぞ照れる淡路嶋天降り來まし
し遠き昔の。

晃耀赫灼天御鏡尊至尊至貴三種神器

傳承年曆無始又無終極大極小極無極之
是日本天皇身矣。

たまきはるうちのはらにかみか
かりかかりています天御鏡。

たまきはる命とか玉きはる内とか云
ふ時此のたまきはるは枕詞だとか冠辭
だとか呼ばれて居る。冠辭考の如き著
書が存つて何とも釋の分らぬことを云
つてある。縁語や序詞のようなものす
ら交ぜて居るのは枕詞の何如なるかを
知らぬ為で單に歌詞の調格を整ふる便
宜に造られたものででもあるかの如く
思ひ誤つたのであらう。調格の為に作
つた詞だと獨断をして居る人も有る
のは輕卒と云ふよりは日本人が日本語
を忘れて年久しきを思はれて慨歎に耐
へぬのである。

晃耀赫灼たる尊容を玉寸春と称ふる
は神言靈で日本語源である。日本語源
流考の書は世にあらざるべからざると
ころであるが未無い。

徒に外に走りて傳引旁證支那語を採
り西亜滿蒙朝鮮印度アイヌに及びてな
は足らざるを嘆く學徒は其の任でな
い。

道は近し談笑坐臥の間と称し道は遠
し山山河河隔てたりと歎くもので道の
遠きにあらざるまた近きにあらざる學
者の心に遠近厚薄明闇正邪の存るが故
なるのみである。

蚊帳一重世を隔てたる思かな。

日本民族の信仰(六)

多田雄三

一二と人こそは舞へ舞姫の比咩神
事を加美ぞ知るなる。

百千萬重重重又重重分散分流又分派
喧喧囂囂操擾騒乱天魔地妖昼夜横行。
三千年前時相隔三千里外國不同白髮
綠鬢意圖乘離古老今人狹卓無語。

法文は唯是レ三章にして民疑はざる
の治世。之レは是レ太古結繩。

玉の緒の締れる身を玉の緒の堅
き人をば惟神神の人ぞと神の代
の神の身なりと結繩結ひて眞賢木
樹てて眞玉繁貴き神こそは宣れ神
こそは知れ神こそ守れ神知らず邇
邇。

太古とは結繩で昔である。結び結び
し神の神身である。

赤玉の珠こそ光れ白珠の玉の緒締
れ神の代の五代七代に結繩結ひて
直日こそ知らせ何時も常世と。

神代は五代にして七代であると古老
は傳へて居るが不幸にして日本の古典
には此の間の記載が欠けて僅に舊事記
のそれと推測し得らるるあるのみであ
る。

二重相裡三重相三重相即四重相四重
相即九重相九重相即一重相一重相即五

重相五重相是箇體即宇宙宇宙變幻七重
相矣。

妖怪變化は醜惡邪曲である。醜惡邪
曲は靈異である奇零である。靈異奇零
は變化生滅である生死遷流である。五
重相即七重相なる所以である。宇宙と
の義である宇宙構成の實際である眞理
である。故に神代であり神の代である。
而して命ではない命との義でもない尊
では固よりない。生死遷流ではない。
生死遷流は七重相であつて五重相で
はないのである。五代であつて七代で
あるのが加美代なので加美能代なので
加美の神徳である。天地剖判である、
波紋に例ふるならば水は命で水と波と
は命で波の水であり水の波であること
を明にして波のままに水のままに波と
水との分際を浸さぬのが尊である。尊
を産出するのが加美の神徳であるから
それは水と波とを合せたことにあたる
のである。

水波不離之是命止 水波流轉亦起滅
之是天命 水波不二又不一妙音琅琅
潮聲瀾瀾之是日本天皇身。日本天皇尊
貴玉體止。水波本來水波之體用之是
神代。又是神加即是神德矣焉哉。

神守る森の神は葛城や一言主の神
の神宮。

我が門の賢木葉茂る緑葉の色美
しき賢木葉茂る。

大日經具緣品曼荼羅は空海所傳高雄

曼荼羅の出づるところで宇宙成壞の圖表である。

日本民族傳承の神傳を圖示して一日の中にあらしむることは極めて必要また急務である。

伊邪那美神。

大日靈貴尊。

大日本豐秋津根別。

春日比咩。

やすんだらひめ。

阿知米。

八俣越呂智。

八衢比古。

八衢比咩。

塩土翁。

宇止。

神皇產靈尊。

五百津眞賢木比咩。

大禍津日。

大戸惑女。

大久米命。

極大極小比。

極大極小の比は計数ではないから圖示の仕様が無い。無いように思ふのは人間心身の計量方法であるからで實際は人間の身の思ひ及ばざる相を示し得るので極無極を□□と教へ絶相對を□□と示し盡天盡地を□□と圖し得るので比の相あるが故に宇宙は成立もすれば壞滅もしながら不生滅であるので固衰呂固衰呂とは此の義を教へられたのである。

ひるがほのはな咲く垣根我がつまはひなのまろやに友をこそ侍て。大日靈貴尊の加美加加利の神言で全音悉神言靈であるが昼貌の花咲く垣根我が妻は陋の客舎に友をこそ侍てと示ふ如き意味も含み居るのである。

上掲伊邪那美神大日靈貴尊大日本豐秋津根別春日比咩やすんだらひめ阿知米八越呂智八衢比古八衢比咩塩土翁宇止神皇產靈尊五百津眞賢木比咩大禍津日大戸惑女大久米命比を大日靈貴尊曼荼羅と称へまつることを得べく日本民族傳承の神言靈にては大日靈貴尊宇止能加美輪と称へまつりて晃耀赫灼正邪剖割神人生の神儀尊容である。

七の妙用で阿彌陀經に所云の七重四巾の神業である。人間世界で例を求むならば全世界聯邦成立の暁で太平嘉悦の人類世界である。

阿阿比賀天叩爾叩由宇阿伊固宇春日比咩春日比咩春日比咩阿阿比賀天叩爾叩由宇阿伊固宇である。

之れを日本民族の念願となすので日本民族の信仰の成果と為すので人類全部の標幟基準と為すので人間身として究極の理想實現と為すのである。

以上

昭和十一年十月三十一日

大日本ミソギ所語部宮



山谷 多田雄三先生の筆蹟



山谷 多田雄三先生の筆蹟

記紀三典對讀之要綱

多田雄三

簡

人間身裡日月運行。神人教之而、稱塩土翁。一旦忽然入于大明、一身俄然遊于大月。大明導之、大月示指之云。道者身血也。又云、人者日止也、神者心也茲也示也。如是。如是。神魔同凡之體。火人歡喜而語于舊師。

山河懸隔路難通

今日別離人難遇

他時異日復奈何

一超直往期玉成

昭和九年二月二十四日

天地初發、トハ高天原ナリ。高天原現

成ナリ。サレバ『あめつちわかれた

る時、人の世界そのまゝ高天原な

り。』トノ意ナルナリ。

高天原トハ神ノ世界ニシテ、

其ノ世界ヲ神代ト稱ヘマツルナリ。

成神、トハ有神ナリ。神坐ナリ。

天之御中主神。

次高御產巢日神、

次神御產巢日神、

ト記シタル古事記ノ文ハ、二紀ニヨ

リテ安萬侶ノ私見ナルコトヲ知ル。

天祖天讓日天狹霧國禪日國狹霧尊ト

舊事紀ニ傳ヘ、天地初判一物在於虛

中狀貌難言其中自有化生之神號國常

立尊ト日本書紀ニ載セタルモノ是レ

ナリ。故ニ之ノ文ハ當ニ

天御中主神。

高皇產靈・神皇產靈・天御中主、ト

アルベキナリ。

此三柱神者並獨神成坐而隱身也。則知

ルベシ、

三柱ニテ一柱、一柱ニシテ三柱ノ神

ニテマシマスナルコトヲ。

隱身也。トハ神成坐ト雖其ノ御相ハ人

間身ノ拜ミ奉ルコトヲ得ザルトコロ

ナリトノ意ナリ。

古事記卷頭ノ四十六文ハ斯ク對讀シ

來ル時、

天地初發、高天原現成。有神、

天御中主神。

高皇產靈・神皇產靈、

此三柱並獨神而隱身也。

ト書キ是スベキモノ也。

古事記既ニ如此。二紀自ラ解クベキ

ナリ。

天地初判、一有成於虛中、狀貌難

言、其中自生神。

日本書紀ノ本文モマタ如是書クベキ

モノニシテ此ノ祕事ヲ傳ヘタルハ此

ノ書存在ノ価値ナリト云フベシ。

天先成而地後定、然後於高天原化生

一神。

天祖天讓日天狹霧國禪日國狹霧

尊。

天御中主・國常立・可美葦芽彥舅、

舊事紀所傳ノ本文モ亦又如是ナルベ

キコト當ニ然ルベシトナス。

於此知ル。

天御中主神。高皇產靈、神皇產靈、ノ

三柱ハ三柱ニテ獨神ナル天御中

主神ナルト共ニ天讓日天狹霧國

禪日國狹霧神ニシテ亦名ハ天狹霧

國狹霧國常立尊ト稱ヘマツルハ天

祖ニテ坐スナリ。

又知ル。

高天原現成、雖拜主神、宇宙未完成

其狀如葦芽、從其中萌騰而成神、

宇麻斯阿斯訶備比古遲尊。天常立、

國常立、宇麻斯阿斯訶備比古遲、四柱

ノ神モ四柱ニシテ獨神ナル宇麻斯阿

斯訶備比古遲尊ナルト共ニ國狹植尊

ニシテ亦名ハ豐雲渟尊ニテ坐スナル

國常立尊ニシテ是レ、天成リ、天成リ

地定リタル時人間身ナガラ又直ニ神タ

ルコトヲ自覺シテ大宇大宙悉皆神界ナ

リト悟證シ得タルモノナリ。

舊事紀ハ尚傳ヘテ云ク、

自厥以降獨化之外俱生二代耦生五
所謂神世七代也。

之レ何ヲ教フルモノナルカ。

先ニ舉ゲタル天祖トハ大宇宙ナル

トトモニ大宇宙ノ大中心ナリ、天讓

日トハ天從出日ニシテ國禪日トハ

國從出日ニシテ天狹霧トハ小宇宙ノ

根本魂ニシテ國狹霧トハ小宇宙ノ身

魂ナリ。サレバ、天祖ハ是レ獨化

ニテ坐ナリ。

俱生二代トハ天狹霧・國狹霧ニシテ

俱ニ日ナリ・火ナリ・直日ナリ・尊

ナリ・魂ナリ・身魂ナリ・身ナリ・

加牟豆實ナリ・神皇產靈ナリ・高皇

產靈ナリ・加牟ナリ・加牟直日ナリ・

神ナリ。即宇宙ノ實際ニシテ、宇宙

構成ノ真理ナリ。

故ニ曰ク、

人間心渾沌天地未剖、唯有萌芽而

耳。

日神・事成而天地初発。天地初発而

人間身拜神。

天狹霧國狹霧天讓日國禪日日神成

生於高天原也。

其ノ日神ト稱ヘマツルハ神代系紀ニ

記載タルトコロニシテ、

天祖天讓日天狹霧國禪日國狹霧

尊

俱生天神

天御中主神

國常立神

可美葦芽彥舅神

化生天神

國常立・國狹立・國狹立・葉國・

豐國主・豐斟淳・豐香節野・浮

經野豐實

天八下神ト率白也。

耦生天神 則、天地、陰陽、男女、

善惡、邪正、凹凸。

角杓・活杓

角龍魂・活龍魂

別天三降神

湍土煮・沙土煮

湍土根・沙土根

別天合神(亦)天鏡尊

大苦彦・大苦姬

大戸野道・大戸摩邊

別天八百日神

青檀城根・吾屋檀城根

沫蕩・沫無

面足・惶根

蚊雁彦・蚊雁姫

別天八十萬魂神

伊弉諾・伊弉冊

高皇產靈神(亦)高魂神

(亦)高木神

天思兼命・天太玉尊

天忍日命・天神立尊

神皇產靈神(亦)神魂神

天御食持命・天道根命

天神玉命・生魂命

津速魂神(亦)市千魂神

興登魂命・天兒屋根命

武乳遺神(亦)振魂神

前玉尊・天忍立命

萬魂神(亦)天剛風神

己上七代天神伊弉諾神(亦)伊

弉冊神八代天神並天降神也。

ト存ルニヨリ。耦生天神並天降

神トハ天讓日天狹霧國禪日國狹霧

神ニシテ日神ニテ坐ナリ。天地剖割

八雲立高天原現成而奉拜神ナルナ

リ。

斯ク察來ル時。難解難入ト讀者ノ苦

心スル処ノ記・紀ノ三典モ一道ノ

光明紙背ニ徹スルモノ有ルヲ覺ユル

ニアラズヤ。

昭和八年七月十二日。火人筆録シテ

世ニ貽ス。

山裡清明一塵不起

山外擾亂風雨將到

山上圓光人不知之

今日不窮明又期何時乎

昭和九年二月十四日

日本天皇后

多田 雄三

(前略)

経緯無き経緯たる此の一點は現象世界の主体にして、現象世界の中心にして、現象世界にして、現象世界たる人身の知り得たる窮極なり。窮極なるが故に一にして一切にして最小にして最大にして簡体たる宇宙としての在る限りなり。

在る限りなれば窮数にして満数にして最小の数にして最大の数にして、最大最小の数にして経緯を認識したる限り無き世界なり。故に有限の無限なり。有限の無限なる世界を萬世一系の世界と呼ぶべく現象世界を一貫して不変易なるの義なり。開華落葉榮枯盛衰生死遷流しつつ、開華落葉榮枯盛衰も生死遷流も起伏成壊も無きの国なり。

日本の古典には此の国を「莫囂圓隣」と記載してアメと伝へたり。サヤナギキクニとの義なれば囂きこと莫き一圓光裡に築き成したる国なり、天國魂なりとの義にして「如浮脂而久羅下那洲多陀用幣疏」と云へるは「囂」なり。其の「莫囂」なるは「修理固成是多陀用幣疏之國」の意にして「圓」とは一圓相なり一圓光なりとの義なれば久羅下那洲多陀用幣疏国土を修理固成したる曉は圓光晃耀たる鏡面の如くなり。「白菰」「羅摩」等と借字したる力ガミなるなり。大圓鏡と佛教に云ふところの虚空蔵なり。

(中略)

此の宇宙無き大圓鏡・虚空蔵・力ガミ・一圓光・一圓相・莫囂圓が宇宙を築成したる時を大圓鏡智・虚空蔵菩薩・ミカガミ・一圓光明体・一圓相・莫囂圓隣と伝へたるところにして、其の宇宙無きの宇宙をも宇宙を築きたる時をも共に「高天原」と伝へ、一圓相と教へたれば宇宙無きの宇宙を空零にて示し左図を描き得るなり。(図略)

此の築き成したる国たる莫囂圓隣をヒノワカミヤと教へて萬世一系なれば天皇と称へまつるに当るなり。アメにして圓光晃耀なれば白玉の合成文字たる皇を充当し、天を充当し合せて天皇と熟したるは、支那人所用の天皇氏地皇氏の天皇の文字を借りて日本語を翻譯したるものにして、一にして一切たる最大最小の数理なるは宇宙たる簡体の見たる事理にして簡体無き宇宙無きの簡体、宇宙より瞰る時は三十六の数理にして百二十・十二・六十三・三百六十・一二三四五六七八九十百千萬にして、三十六神界と称する時は「久延毘古」と伝へ、百二十神界は「意富加牟豆美尊」、十二神界は「伊邪那岐神」、六十三神界は「伊頭能賣神」、三百六十神界は「瓊瓊杵尊」、一二三四五六七八九十百千萬神界は「饒速日尊」にして、「伊弉諾尊神功既畢登矣天報命留宅於日之少宮」と伝へたる「日若宮」とは此の十二神界にして莫囂圓隣の中なる一國ヤマトなり。(中略)

大宇宙の大中心を日本天皇の祖神と
称へまつるべきなれば、天照皇大御神

にして之れを日本民族発祥の日なりと
なすなり。
(中略)

照大御神出生の高天原たる莫囂圓なれ
ば国無きのとなるなり。火にして日に
して一にして
(中略)

此の日は国を産出するの祖なれば、
大日本帝国憲法の條文には現れざるこ
とと拝察し奉るなり。

如是にして築き成したる国をばミカ
ガミと称へまつるところなれば、天津
磐境にして皇土なること固よりなり。

されば皇土たる大日本国は天皇統治
の神国なること亦固よりなり。

(中略)

此の高天原は日本天皇の領土にして
日本民族発祥の神界にして天津神国津
神命以ちて領有坐邦土なり。「羅摩船」
と記載したるところにして「三十二人
供奉」と云へる饒速日尊奉戴の「伴緒」
なり。

(中略)

「五伴緒」とは数理としての五を冠
したる伴緒なりとの義にして、正誠正
義の言論行為を行使して築き成したる
皇土なり、淨地なり、「天国魂」なり
との意なり。

(中略)

されば箇体たる一切の資料が整理せ
られたる暁をカミと称へ、カミヨと呼
びカミノヨ・カミノクニと讚美し、カ
ミノヒトと崇敬して尊貴なれば尊の支
那文字を借りてミコトの日本語に充當
て用ゐて日本天皇を称へまつれるなり。
天皇とは尊にして神にして神人にして
民人の如き箇人にてはましまさぬなり。

(中略)

斯くて天照大御神は莫囂圓隣なる最
大最小の天国にして伊邪那岐命伊邪那
美命二柱神の修理固成したるところな
れば宇宙の中心にして大宇宙の大中心
を中心となせることを知らるるなり。
之れを宇宙たる箇体成立の基準とな
す。

(中略)

故に命は天命にして神代の神にして
人間身としては窺ひ知ること能はざる
となるなり。

ヒは莫囂圓にして、ヒの国は莫囂圓
隣にして共に天照坐皇大御神の修理固
成なる祕儀密事なり。

天照坐皇大御神とは伊邪那美神の別
名にして火神と称へまつるなり。「火
夜藝速男神・火炫比古神・火迦具土神
・伊邪那美神者因生火神而神避坐也」
火神を生みまして神避ますは伊邪那
美神即火神なりとの義にして、地界平
定妖魔調伏の神徳を顕彰し給へるを示
したるなり。

(中略)

産出したる宇宙はアメなれば莫囂圓隣
にして「我が主」にして根本魂なりと
の義なり。

此の根本魂を直日と教へて産靈の神
と称へまつるなり。魂なる支那文字を
ムスビなる日本語に充當てたるは此の
故にして「生魂・足魂・玉留魂」「皇
産靈」と記載したる神言靈なり。

(中略)

然れども、一切の宇宙が悉く然りと云ふにはあらざるなり。大宇宙の中心たるヒを根本中心として築き成したる宇宙にして人にしてはじめて、其の中心は高天原なり、天照皇大御神なり、天津神なり、国津神なりと知るべきなり。

世界邦土、人類民族多しと雖、天津神の命以ちき築き成したる人の必しも多からざるは、正義必しも行はれず善行必しも賞せられず、然のみならず、奸黠却って横行し邪惡日夜に跋扈するを見て推定せらるるなり。

邪惡醜陋の妖魔を調伏し済度して正誠善美の神業神事に従はしむるは、天皇の神徳にして日本建国の精神にして「八尺勾魂」と教へたる神言靈なり。

如此の相(図六)を調伏せられたる妖魔となす。更に済度し救出したる時は左図(図七)の如くなるべし。

(図略)

又更に誘導して天津神宮に摂入したる時は、重重無盡の圓光と化りて晃耀赫灼たる五色光なり。(中略)

天津神宮たる日若宮より火神の神宮に入る時は、一圓相にして一音響にして人間身としては描くべき方圖を知らず、語るべき言語も無きなれどもヒナリと云ひ、ヒカリなりと呼びて類推せしむるなり。人若誤り認めて球の如く圓の如くなりとなさば相距ること幾千萬里のみにあらざるべし。

(中略)

「八尺勾魂・鏡・叢雲劍」「常世思金神」「佐久久斯侶伊須受能宮」と伝承したるは火神の神宮を知らしめんとするの神慮畏きことなるべしと拜しまつるなり。

(中略)

而して火神の神徳とは天照坐皇大御神にして、火神宮とは天照皇大御神にして、火神宮を修理固成なすなるは伊

邪那岐命伊邪那美命二柱神にして、其の火神宮より産出し給へるは天照大御神にてましますなり。

天照大御神とたたへまつるは天皇にてましますこと上に述べたるが如くなれば、大日本帝國を統治し給ふは天皇にして天照大御神にして伊邪那岐命伊邪那美命二柱神にして、即、大日本帝國に外ならざるなり。

古老は此の義を教へてノリトなりと云へり。

ノリトは法なれば現象世界の主體たる本體世界にして、活用を現する體なると共に活用たる機関なり體にして用にして、體用不一不二なる原則なり。此の原則を認めて人間社会を此の原則の如く運用せんとするものに法人なる規定存り。人格と認めたる組織體系にして機関なると共に主體を具備したるなり。

(後略)

人間身としては見聞するの機能を認め得ざる世界なれば勿論示すること能はざるなれども推理し認識することは難きにあらざるなり。

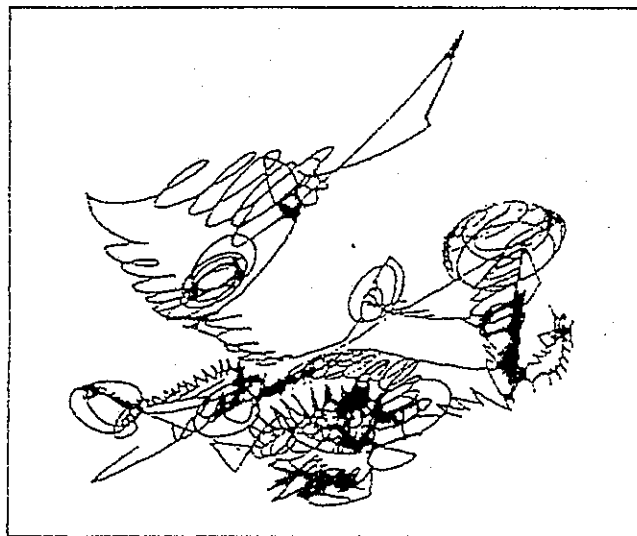
経緯無き経緯たる此の一點は現象世界の主体にして、現象世界の中心にして、現象世界にして、現象世界たる人身の知り得たる窮極なり。窮極なるが故に一にして一切にして最小にして最大にして箇体たる宇宙としての在る限りなり。

在る限りなれば窮数にして満数にして最小の数にして最大の数にして、最大最小の数にして経緯を認識したる限り無き世界なり。故に有限の無限なり。

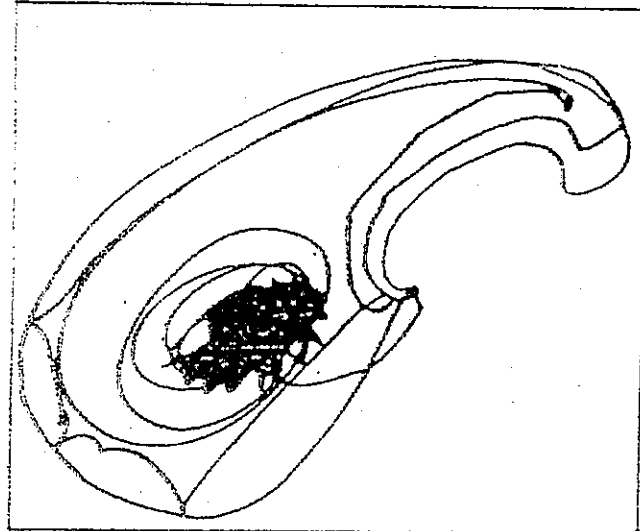
有限の無限なる世界を萬世一系の世界と呼ぶべく現象世界を一貫して不変易なるの義なり。開華落葉榮枯盛衰生死遷流しつつ、開華落葉も榮枯盛衰も生死遷流も起伏成壞も無きの国なり。

日本の古典には此の国を「莫鷺圓隣」と記載してアメと伝へたり。サヤナギキクニとの義なれば鷺きこと莫き一圓光裡に築き成したる国なり、天國魂なりとの義にして「如浮脂而久羅下那洲多陀用幣疏」と云へるは「鷺」なり。其の「莫鷺」なるは「修理固成是多陀用幣疏之国」の意にして「圓」とは一圓相なり一圓光なりとの義なれば久羅下那洲多陀用幣疏国土を修理固成したる曉は圓光晃耀たる鏡面の如くなり。「白鷺」「羅摩」等と借字したるカガミなるなり。

邪惡醜陋の妖魔を調伏し濟度して正
 誠善美の神業神事に従はしむるは、天
 皇の神徳にして日本建国の精神にして
 「八尺勾魂」と教へたる神言靈なり。



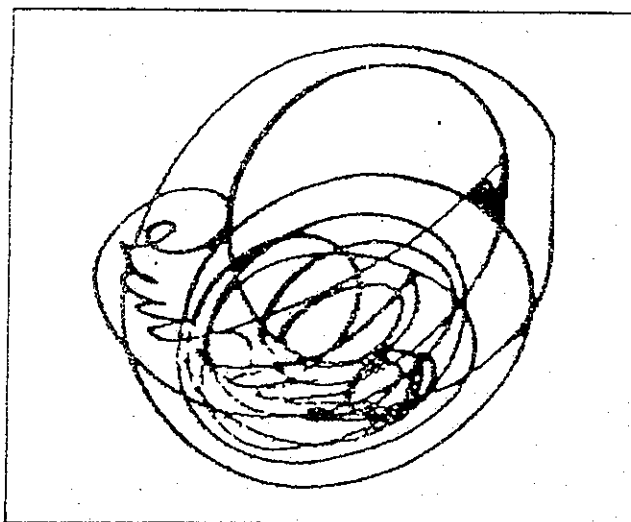
図六



図七

如此の相（図六）を調伏せられたる
 妖魔となす。更に濟度し救出したる時
 は左図（図七）の如くなるべし。

又更に誘導して天津神宮に攝入した
 る時は、重重無盡の圓光と化りて晃耀
 赫灼たる五色光なり。之れを平面に描
 く時は左図の如くにして立体に彫刻す
 れば球の六十六重相なり。（図八）



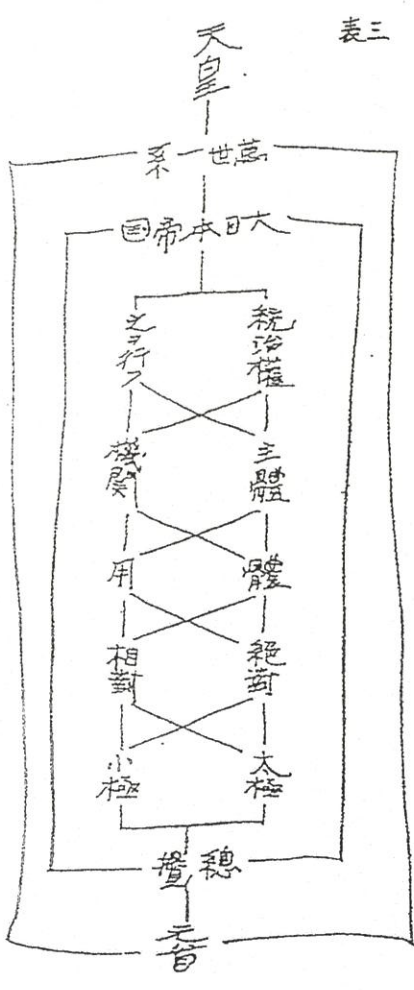
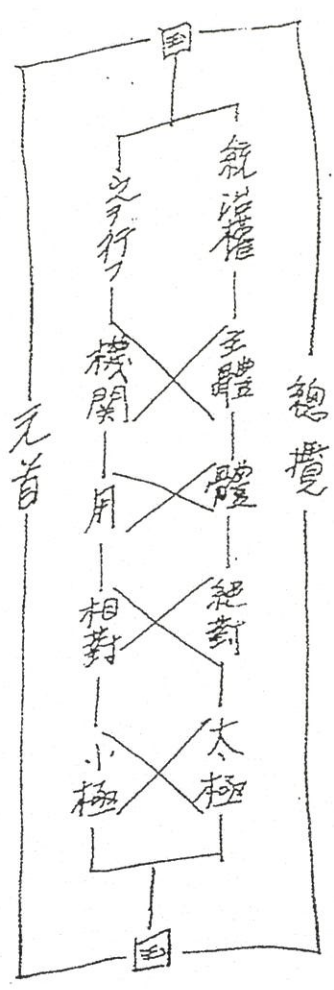
図八

天津神宮たる曰若宮より火神の神宮
 に入る時は、一圓相にして一音響にし
 て人間身としては描くべき方圖を知ら
 ず、語るべき言語も無きなれどもとな
 りと云ひ、ヒカリなりと呼びて類推せ
 しむるなり。人若誤り認めて球の如く
 圓の如くなりとなさば相距ること幾千
 萬里のみにあさざるべし。

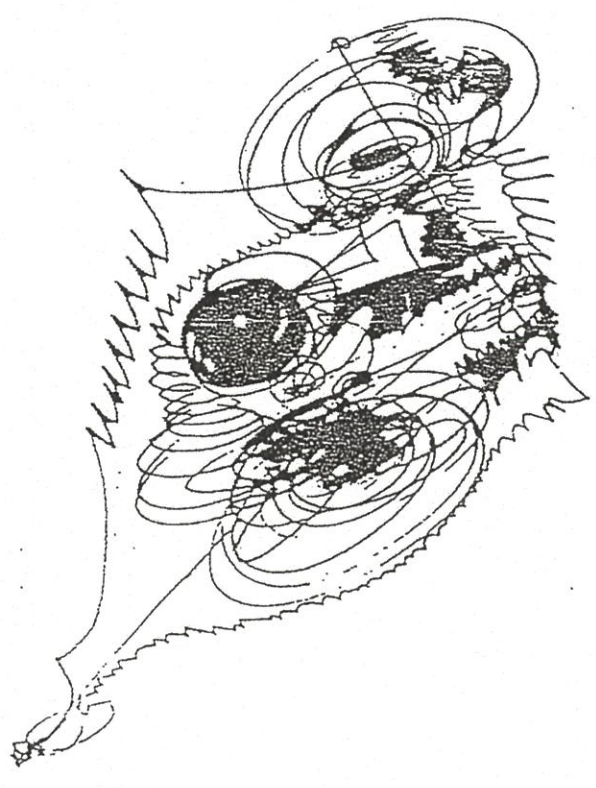
なれば支那民族が「陰陽不測謂之神」と伝承したる両儀が位置に依りて転還すると等しき関係なり。(表二)

されば単に統治権を主體なりと云ふは行使を單に機關なりと思ふと等しく甚しき誤解謬見なり。

今、大日本帝國憲法の條文を其のまゝ圖表となすときは左の如く(表三)



にして之れを天照坐皇大御神天照皇大御神天照大御神豊受比賣と称へまつることを得べき神皇系圖なり。佛教に云ふところの曼荼羅にして神界構圖の體系なれば則、日本國體にして、七重四宝にして、阿彌陀にして、法身如来にして、佛にして、基督にして、國成りなりたるなり。大宇宙の大中心を中心



山谷 多田雄三先生の筆蹟

となしたる宇宙が大悟徹底して大宇宙と等しき妙用を現じたるなり。佛國にして神身にして明津神にたまはしますなれば、神代七代にして「如浮脂而久羅下那洲多陀用幣琉國」の「修理固成」されたる暁なり。神にして稜威にして上下君民領土財産天象氣流等の一切が統一魂として、統一魂神として、統一神として、統一玉として、天成り國成り成りたるなり。日神にして、一神にして、日にして、火にして、靈にして、魂にして、緋にして、氷にして、否に

して、非にして、非否にして、日止なるなり。「地水火風空」なると共に、「般若心」なる釈迦大日なり。過去七佛の築き成したる宇宙なり圓相なり。「八尺勾魂」の神儀尊容なり、阿阿比賀天畔爾畔由宇阿伊固宇の神挂なり。之れを(右の図十)其の尊容の一角となすなり。

以上 昭和十年十月三十日執筆

大日本帝國憲法

完

△法文ハ簡潔ニシテ條理ノ整然タルヲ主トス。
條理整然トシテ一字ヲモ動カスベカラサル法文ヲ又
更ニ解説スルハ蛇足ヲ添フルニ似タリ。
然レドモ無用ノ文字ノ時ニ有用ナルコトアリ。故
ニ今此ノ小解ヲ作ル。希クバ以ツテ大日本天
皇ノ玉體ヲ遙拜レ奉ラシコトヲ。
之レ 天皇統率ノ下ニ生存スル民人ノ分ナ
ルコトヲ知レバナリ。

以上

昭和十一年六月十五日

大日本^{ミソギ}後援所同人敬具

明治三十二年二月十一日公布セラル

大日本帝國憲法第一條ト第四條トニ關スル解説

大日本帝國憲法第一條

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
ル第四條

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此
ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

以上ノ二條ハ帝國憲法中直接ニ大日本國體ヲ國
法トシテ規定シタルモノナリ。

サレバ法治下ニ生活スル帝國臣民ハ總ハテ此ノ法規ヲ
遵守セザルベカラズ。

法文ハ簡潔ニシテ條理ノ整然タルヲ主トスルハ此ノ二條

然ルニ世上某甲ノ憲法論憲法學說等ノ語有リテ
帝國憲法ニ對スル解說ヲ別途ニス。
之ヲ斷ジテ許スベカラサル叛逆ナリ。

審議裁斷天皇權
弘宣流布天皇教
裁決取捨天皇權
渾球白玉天皇身
之是日本天皇國。



日本天皇國即天皇
天皇即國體國權國土民人天象地氣。

條理整然トレテ一字タモ動カスヘカサル帝國憲
法ヲ又更ニ解說スルハ蛇足ヲ添フルニ似テリ。
然レドモ無用ノ文字ノ時ニ有用ナルコトアリ。故
ニ今此ノ小解ヲ作ル。希クハ以ツテ大日本
天皇ノ玉體ヲ遙拜_レ奉_ルコトヲ。
之レ天皇統率ノ下ニ生存スル民人ノ分ナルコ
トヲ知_レハナリ。

以上

昭和十一年六月十五日

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

○萬世一系トハ一貫シテ變易スルコト無キナレバ現象

世界ヲ超越シテ現象世界ヲ抱括スルノ義ナリ。現象世界トハ箇體タル萬類萬物ナレバ經有リ緯有

ルナリ。之ヲ宇宙ト呼ビテ大小長短廣狹厚薄ノ存在

ナリ。此ノ現象世界ヲ超越シ抱括ストハ現象世界ナラサルノ現象世界ナリトノ意ニシテ箇體ナラズ宇宙ナク人類

萬類萬物等ト呼ブトコロトハ異ルナリトノ義ナリ。故ニ現象世界ヲ否定シテ肯定シタルナリ。否定ストハ

無ニシテ肯定ストハ有ナレバ無ニシテ有ナルナリ。現象

世界ノ有ルニアラスシテ然モ現象世界ノ無キニハアラス

ルナリ。肯定ノ否定ニシテ現象世界ノ類ニシテ宇宙ノ經緯ニシテ肯定ノ肯定

儼トシテ存在セリト認ムルハ宇宙タル人類ノ五感の意

識ナレドモ人類産出、根元ヲオストゴハ極ニシテ經ノ極ニシテ緯ノ極ニシテ經即緯・緯即經タル一點ナリ。産出ト呼ブハ構成セラレタル中心トノ義ニシテ箇體ノ根本ナリ。根本タル中心トハ窮極ナレバ一點ニシテ經緯與キノ經緯ナリ無世界ノ世界ナリ現象世界無キノ現象世界ナリ。



人間身トシテハ見聞スルノ機能ヲ認ム得ザル世界ナレバ勿論圖示スルコト能ハサルナレドモ推理レ認識スルコトハ難キニアラサルナリ。

經緯與キノ經緯タル此ノ一點ハ現象世界ノ主體ニシテ現象世界ノ中心ニシテ現象世界ニシテ現象世界ナルル人身ノ知リ得タル窮極ナリ。窮極ナルガ故ニ一ニシラ一切ニシテ最小ニシテ最大ニシテ箇體タル宇宙トシ

テノ在ル限リナリ。在ル限リナレバ窮數ニシテ滿數ニシテ
最小ノ數ニシテ最大ノ數ニシテ最大最小ノ數ニシテ經緯ヲ
認識シタル限リ無キ世界ナリ。故ニ有限ノ無限ナリ。
有限ノ無限ナル世界ヲ萬世一系ノ世界ト呼ブベク現象
世界ヲ一貫シテ不變易ナルノ義ナリ。開華落葉
榮枯盛衰生死遷流ニツツ開華落葉モ榮枯盛衰
モ生死遷流モ起伏成壞モ無キノ國ナリ。

日本ノ古典ニハ此ノ國ヲ「莫器圓隣」ト記載シテあ

めト傳ヘタリ。さやぎなきくにトノ義ナレバ器キフト莫

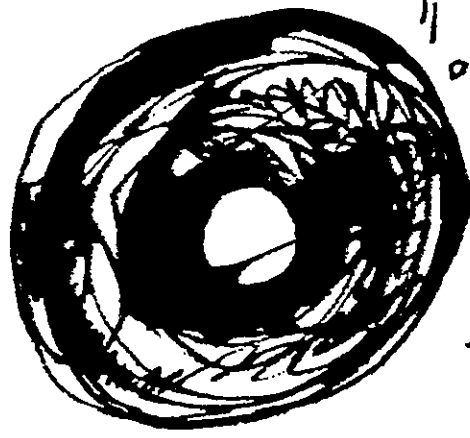
キ一圓光裡ニ築キ成シタル國ナリ。天國魂ナリトノ義ナレバ

「アブラミミテクラゲナス」ト云ハルハ「器」ナリ。其
如浮脂而久羅下那洲多陀用幣琉

ノ「莫器」ナルハ「修理固成是多陀用幣琉之國」ノ意

ニシテ「圓」トハ一圓相ナリ一圓光ナリトノ義ナレバ久羅下

那洲多陀用幣琉國土ヲ修理固成シタル曉ハ圓光是耀



タル鏡面ノ如クナリ「カガミ」白藪「カガミ」羅摩「カガミ」等ト借字レタルカガミ
 ナルナリ。大圓鏡ト佛教ニ云フところノ虚空藏ナリ空ナリ無ナリ
 人間身ニテハ見聞覺知スルコト能ハサル所窮極ナリ所窮極ナリトモ知
 レザル極ナリ宇宙無キナリ。此ノ宇宙無キ大圓鏡・虚空藏・
 カガミ・一圓光・一圓相・莫器圖ガ宇宙ヲ築成レタル時
 ヲ大圓鏡智・虚空藏菩薩・ミカガミ・一圓光明體・
 一圓相・莫器圖隣ト傳ヘタルところニシテ其ノ宇宙無キノ宇
 宙ヲモ宇宙ヲ築キタル時ヲモ共ニ「タカマノハラ」高天原ト傳ヘ一圓相ト
 教ヘタレバ宇宙無キノ空零ヲ無宇宙ノ宇宙トシテ左圖ヲ描キ
 得ルナリ。

此ノ筆キ成シタル國トシテノ莫量圖隣ヲハのわかみやト教ヘテ萬
世一系ナルバ天皇ト稱ヘマツルニ當ルナリ。あめニシテ圖光是耀
ナレバ白玉ノ合成文字ヲ以ツテ皇トナレ皇タル國土ノ主ナレバ○ニ
シテ日神^{ヒツカミ}ナリ○天ニシテ天皇ニシテマラスナリ宇宙ノ主ニシテ
全宇宙ニシテマラスナリ經緯ノ中心ニシテ經緯ヲ統治シ統率シタマ
フナリ。

サレバ皇土タル大日本國ハ天皇統治ノ神國ナルコト左ノ表ノ如キナリ。

大日本帝國  皇土  天皇統治ス  神國  大日本帝國

此ノ圖表ヲ平面ニ描クトギハ前ニ掲ゲタル高天原^{タカマノハラ}ノ如クニシテ

高天原^{タカマノハラ}即大日本天皇國ト稱ヘマツルベキナリ

此ノ高天原^{タカマノハラ}ハ日本天皇ノ領土ニシテ日本民族發祥ノ神界
ニシテ天津神國津神命^{アマツカミミコ}以テテ領有坐邦土ナリ。

大日本帝國憲法小解

大日本帝國憲法中直接ニ大日本國體ヲ國法トシテ規定シ
タル第一條ト第四條トニシテ左ノ如クナリ。

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法

ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

此ニテ條ノ條文ヲ剖^ラテハ五項目トナルベシ。

一、天皇ハ大日本帝國ヲ統治ス。

二、天皇ハ萬世一系ナリ。

三、天皇ハ國ノ元首ナリ。

四、天皇ハ國ノ統治權ヲ總攬ス。

五、天皇ハ憲法ノ條規ニ依リ統治權ヲ行使ス。

以上ニ依リテ天皇ノ神聖ニモシマスコトヲ明瞭ニ特察シ奉
ルコトヲ得ルナリ。

現存セル日本古典ニ神聖ノ文字ヲ用キ先^{ハシメ}最古ハ日本書
紀ニシテ。^{カミヨノミキ}神代卷ニ「^{アメサキチリツチハノミサダレリ}天先成地後定。然後^{ニカミノヒトハツノ}神聖生於
其中焉^{ウチニアルニモルナリ}」トシテ此ノ神聖ハ國常立尊ト稱ヘマルナリト載
セタリ。

故ニ知ル。大日本帝國ヲ統治シタマフ天皇ハ萬世一系ニシテ
國ノ元首ニシテ國ノ統治權ヲ總攬シタマヒ^{ニトコタチ}憲法ノ條規ニ依
リテ統治權ヲ行使スルト云ノ神聖ニシテ國常立尊ト古典
ニ記載シタル玉體ニテマシマスナルコトヲ。

今之レが解説ヲ作リテ大日本帝國憲法小解ト名ヅケ
タルハ之レニ依リテ大日本國體ヲ知ルコトヲ得ベケレバナ
リ。

法文ハ簡潔ニシテ條理ノ整然タルヲ主トス。
條理整然トシテ一字ヲ動カスベカラサル法文ヲ又
更ニ解説スルハ蛇足ヲ添フルニ似タリ。
然レドモ無用ノ文字ノ時ニ有用ナルコトアリ。故
ニ今此ノ小解ヲ作ル。希クバ以ツテ大日本天
皇ノ玉體ヲ遥拜シ奉ラシコトヲ。
之レ 天皇統率ノ下ニ生存スル民人ノ分ナ
ルコトヲ知レバナリ。

以上

昭和十一年六月十五日

大日本^{キョウギ}禊祓所同人敬具

第一章

天皇ハ萬世一系ナリ

萬世一系トハ變易スル現象世界ヲ一貫シテ不變易ナリ
トノ義ナレバ現象世界ヲ超越シテ現象世界ヲ抱括スル
ノ謂ナリ。

現象世界トハ箇體タル萬類萬物ナレバ經有リ緯有
ルナリ。之レヲ宇宙ト呼ビテ大小長短廣狹厚薄ノ存在ナ
リ。

此ノ現象世界ヲ超越シ抱括ストハ現象世界ナカサルノ現象
世界ナリトノ意ニシテ箇體ナラズ宇宙ナズ人類萬類萬物
等ト呼ブトコロトハ異ルナリトノ義ナリ。

現象世界ヲ否定シテ肯定シタルナリ。否定ストハ無ニシ
テ肯定ストハ有ナレバ無ニシテ有ナルナリ現象世界無ク
シテ現象世界ノ有ルナリ。



人類産出ノ根元ヲナストコロハ極ニシテ經ノ極ニシテ緯ノ極ニシ
テ經即緯緯即經タル一點ナレバ經モ無ク緯モ無ク現象世界
ヲ成サザルナリ。故ニ無世界ノ世界ニシテ現象世界無キ
ノ現象世界ナリ人間身トシテハ見聞スル機能ヲ認メ
得ザル世界ナリ。無ノ有ナリト呼ブ外無キナリ。

無ヲ論ズルハ人類ノ基準カ人類自身
人類産出ノ根元ヲ知ラザル
ガ爲ナリ

ニ
テ

経緯無クシテ経緯ヲ現ズルハ現象世界ノ主體ニシテ
 現象世界ノ中心ニシテ現象世界ニシテ現象世界タル人
 間身心ノ知り得タル窮極ナリ。窮極ナルが故ニ
 シテ一切ニシテ最小ニシテ最大ニシテ箇體ハ宇宙トシテ
 ノ在ル限リナリ。



在ル限リナレバ窮數ニシテ滿數ニシテ最小ノ數ニシテ最大
 ノ數ニシテ最大最小ノ數ニシテ経緯ヲ認識シタル限リ無
 キ世界ナリ。故ニ有限ノ無限ナリ。

有ク現限ノ無限ナル世界ヲ萬世一系ノ世界ト呼ブ
 象世界ヲ一貫シテ不變易ナリトノ義ナリ。

開華落葉榮枯盛衰生死遷流ニツク開華
 落葉榮枯盛衰モ生死遷流モ起伏成壞モ

無キノ國ナリ

之レヲ莫大焉

國隣

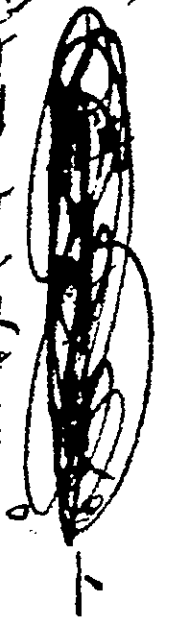
高天原

神國ナリト云ナリ

稱ヘテ大日本帝國ナル



高天原



神國ナリト云ナリ

日本国體觀



日本天皇ヲ天皇トハ曰フテアル。

大日本ハ國ノ體ハ主體テ全體テアル。天皇ノ外ニハ國ハ
無イテ天皇即國家テ國體ヲ曰フ帝國テアル。

之レヲ萬世一系トタマヘマツルヲ大日本帝國憲法ニ
「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト定メ
サセラレシ所以ト觀ヒマツルノテアル。

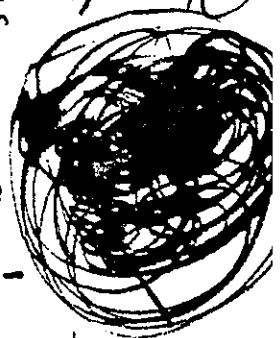
天白エトハ萬世一系ヲマレマセバ天津日嗣トタタヘマツルノテ
其ノ意味ハ臣民民族ト領土財産ト立法行政司法ヲ
初メ諸有ノ機構ヲ包含統テタル全體テアル一切デア
ル主體ニアツテ活用デアツテ統一體ニホテアルト云フノ神
ニテマレマスナリト云フノデアリ。

神ニマレマス天白エ人ノ身トシテノ父母ハマレマサズ私
ノ御心ハマレマサズテ明津神トタタヘマツルノデアリ。

明津神ハ大宇宙ノ大中心トシテノ法則ノ顯現テ天壤無
窮ノ天津ノ嗣テアルトノ美ヲソノママハ在國體ヲ教ヘラ
レタルハ在語テアル。

大宇宙ノ大中心トシテノ法則ノ其ノママナリ明津神ヲ天

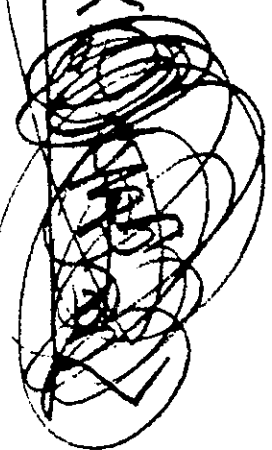
白エトタタヘマツル
来ツタモ道理デ
此ノ事理ヲ日本ノ古典ニ記載シテ一神・日神・火神・
等ト教ヘテアル。



ケレドモ要キ説明シレタモ
證明ヲ得ナケレバナラヌ。
其ノ神事ノ證明ヲ得タ上デ更ニ古所ケバ又幾多ノ資料ヲ
發見セラルルノテアル。



日本國體ヲ明瞭ニ把握
セントス



我等ハ何モ民族テアルカウハ何ノ國體ヲ明瞭ニ把
握シテ人々ニ奉テ完全ニ盡サネバナラヌ。

大日本帝國ハ萬世ノ一統ニシテ大日本之ヲ統治ス

一 天子の國 之者ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ

條規ニ依リ之ヲ行フ。ト帝國憲法ハ定カラレシ

アルカラスレガ。日(日)體ヲ明瞭ニ教ヘニシ。

ソレモ國ハ之ニ誰彼ノ憲法論ヲカ憲法學ニ説カ

呼ビテ甲論乙駁シツツ喧喧然タルハ何故デアラウカ。

怪訝ニ堪ヘズ不思議ナラヌ。カ之レハ簡明ナル條文

タケデハ満足ニ理解シ充カニ納得スルコトガデキズ歐米

諸國ノ憲法學ハ既ナドヲ與ヒシニ依ツテ國體ノ別

デアルカノ憲法ヲ解釋シヨウカスルガ爲ト日本ノ歷

史ヲ觀ミズ古典ヲ與ハズ。日(日)體ヲ知ラヌ。爲

過失デアラウ。ソレ故ニ與ハズ者モ悪イカ教ヘヌ者

モナクナイ。國體ヲ的確ニ把握スルハ古典ノ正確ナ研究ヲ

基礎をトセねハナラヌ。

或ハ古典ハ知ラストモ帝國憲法ヲ正確ニ教フレバ可イ
ト云フ人ガアルカモ知レヌ。ケレドモ人ハ現在ノミノ人デハナ
イ。過去ガ有リ将来ガ有ル。現行ノ憲法ガ何如
ナル過去ノ上ニ築カレタノカ将来ヲ何如ニ導クベキカ。現
在ト将来トノ指針ヲナスモノハ過去デアルカウ過去ノ
典ヲ藉ハ最明瞭ニ研究セねハナラヌ。正確ニ理解
セハナラヌ。

過考ヲ知ルベキ古典ノ研究ガ完全ニ出来シ憲法ノ解
釋ガ區々ニ分列セラルコウナ憂患ヲ起シ又ノテ
國民思想ハ自統一ニテ素朴平直加饒ノ醇俗
美見ヲ致スベキデアル。

此ノ故ニ我等ハ日本國體ヲ明瞭ニ把握セントシ
テ是ヲ典ハ研究ヲ起スルモノデ古典研究ハ

成果ハ必日本民族が天降以來ノ理想ヲ實現
シ得ルモノナルコトヲ期スルヲ

以上
昭和十一年十一月八日

大日本後援所同人

鈴木亭

敬具

行く水の送らぬ知らば一時も徒爾に過さず
世の人の爲。

行雲流水山裡山外



◎◎

ミツギスルコロエ

後漢ヲ脩ムル人ノ注意スベキ事

人我ノ見ヲ捨ツルコト。

第二。

神言靈聖ヲ觀ルベキコト。

第三。

天真并ノ水ヲ仰ギマツルハミコト

第四。

一神ハ日神ニシテ兩儀ナリト知ルベ

第五。

言ハ神ナリト悟證スベキコト。

第六。

相モ神ナルコトヲ悟證ルベキコト。

第七。

上下内外一團ノ光明體トシテノ神國ヲ

築キ成スベキコト。

以上

ひろみ。

あみよいむなしいのち
あまをむねに
あまをむねに
あまをむねに

あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

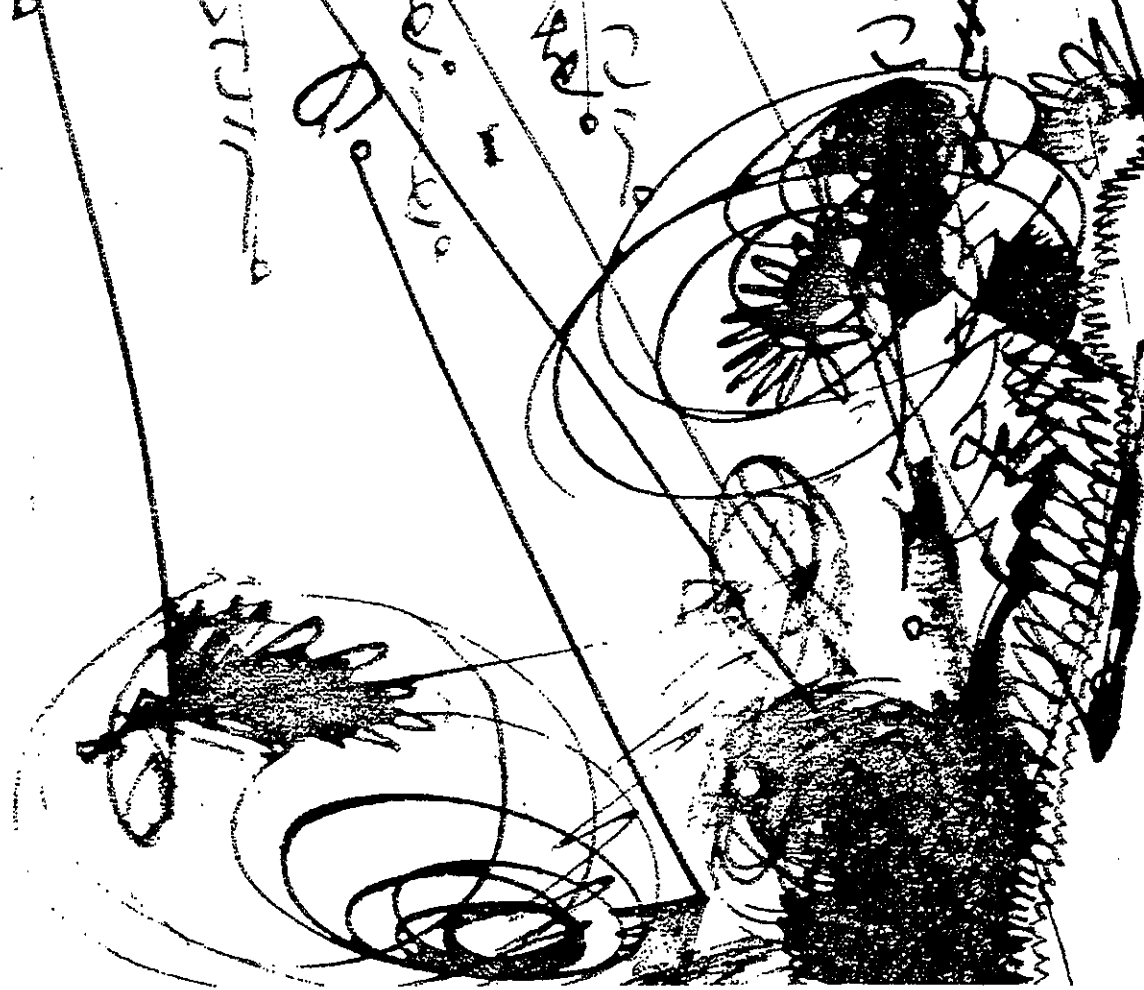
あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

あまがてん
あまがてん
あまがてん
あまがてん

あまがてん

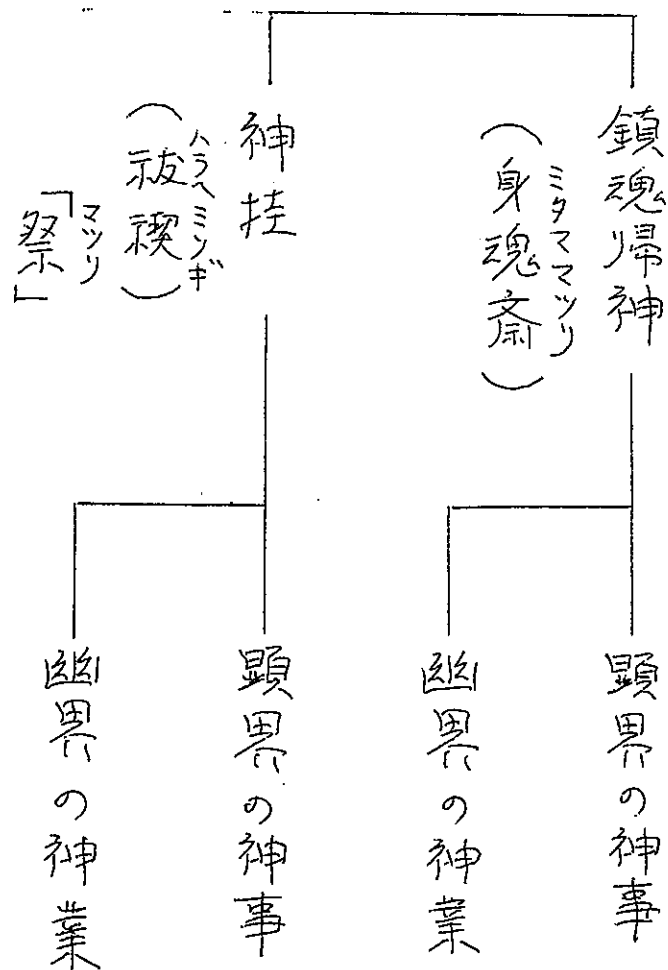




鎮魂帰神とは

身魂齋みたままつりで、遊離ユリの諸魂を招致奉齋して高天原を築き日ひと火ひと日ひ若宮わかみやとの宇宙を産出し長養して神國たる人類世界と成さんとし成すなる禍津日まがつひ・八十禍津日やそまがつひ・大禍津日おほまがつひ・直靈なほひ・大直靈おほなほひの神事かみかきであり、神挂かみかきとは現身を調伏し濟度し救出して白玉身みずかと成して自ら其の白玉身裡に白玉樓閣いはさかを築き、之れを磐境たる胎磐かがみとして鏡かがみとし鏡の船ふねとして極大極小の比ひを招祭りて直日なほひ・大直日おほなほひの人と成りて生誕するの祓禊はらへみそぎで、天照大御神あまてらすおほみたる天御鏡あまのみかがみ尊のみこと誕生の神儀尊容あれましである

日本民族の信仰(一)



六道輪廻(二)

多田山公秘稿

コトタマ

六とは数下はない。

ムと發する音義(ひびき)の示すところである。

〔其の音義(ひびき)をコトタマと日本民族は傳承へて居る。〕

ムとは空零で、正邪の外に存るの義で、正邪を築くの點である。

故に六道と呼ぶので、六道各界なので、各世界が六に歸結して大死を得るので、六とは大悟徹底すべき方途(みち)である。

發(ひら)いて闔(と)じて窮盡(つきとうす)ので、極小の火に徹するのである。

地獄の釜の底を打ち抜くので其処は光明赫灼一圓昭昭一音琅琅たる大宇大宙(ただひかりのみ)である。

初に光存り、徹底即達頂、極大即極小(ひかりはかみなりき)であるから、六とは極(はて)が無いので、箇體たる小宇宙が其の源泉である大宇宙に到達する道なのである。

無(む)なので空零である。無中心であるから一點(ひ)である。

けれども、唯に無いのではない。

唯に無いと思はば、六道輪廻で地界魔境に縛められたのである。

六は成数の外に脱出したのであるから、之れをココロと呼びて靈念思考と千變萬化するヒなのである。

此のヒを六道と呼ぶので、結ばば直靈で、脱出すれば禍津毘で、共に宇宙を築きながら宇宙を破壊する神魔なるイノチなのである。

で、人の心は平常肉體外に脱出しつつ魔想魔心と化(なり)ながら又、内に歸りて魂となり直日となり又復、脱出を企てて禍津毘となりつつ往還流行寸時も止むことは無いので、結ばば神解くれば日、逃ぐれば魔なのである。

小宇宙としての箇體は無間斷に其の箇體自身の外に脱出そうとする心を有つて居るので、其の脱出した心が其のまま自分自身を離れて別な箇體を築いて獨立生活を營むことがある。

此の離れた心を日本では遊離諸魂(ばけみたま)と教へて居る。

術魂(ばけだま)とも云ふので、幽靈とか亡魂とか云ふのと同じで、魔境魔界の主である。

此の魔境魔界を調伏し濟度し救出するは神徳で、其の色相は綠色である。

綠色は張落榮枯を教へた色で教へたと共に事實であるので、スリカタメナスナルアマノ又ホコの示言靈を指すので其の色で

付図. 仏教の宇宙観

